

令和 7 年度
京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～

学校改善支援プラン

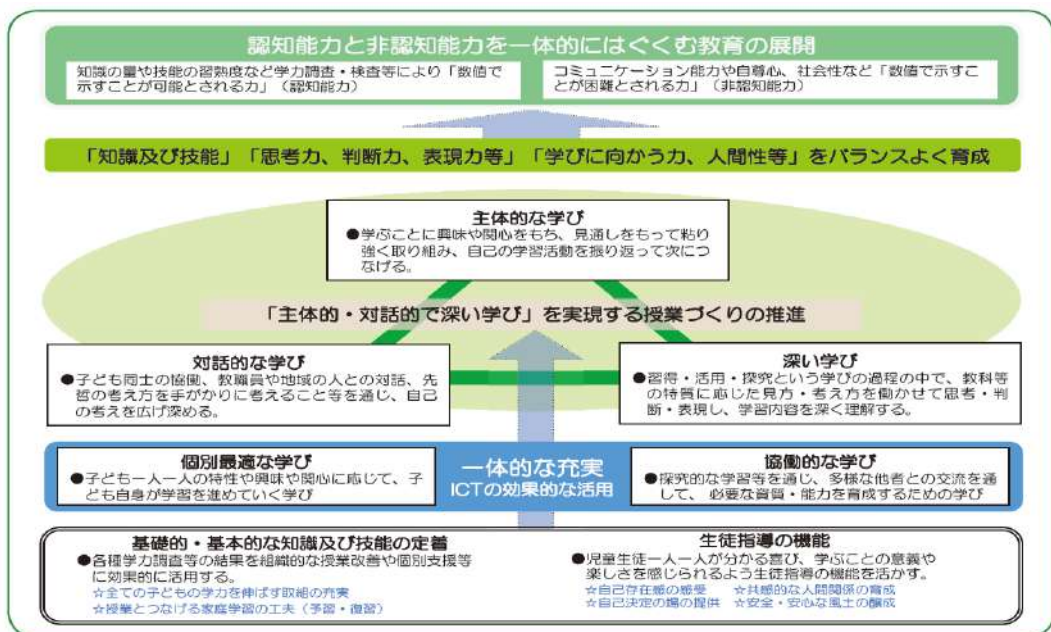
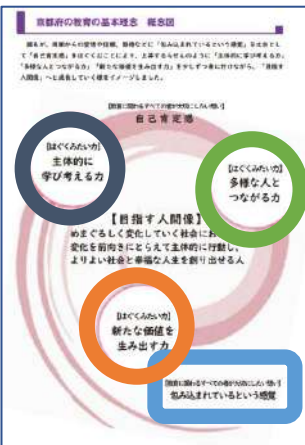
～学びのパスポートの結果分析を生かしていくために～

令和 8 年 3 月
京都府教育委員会

- I 京都府の方針
- II 結果分析及び活用
- III 学びのパスポートから見えてきたこと
- IV 研究校の実践の足あとから
- V 提言

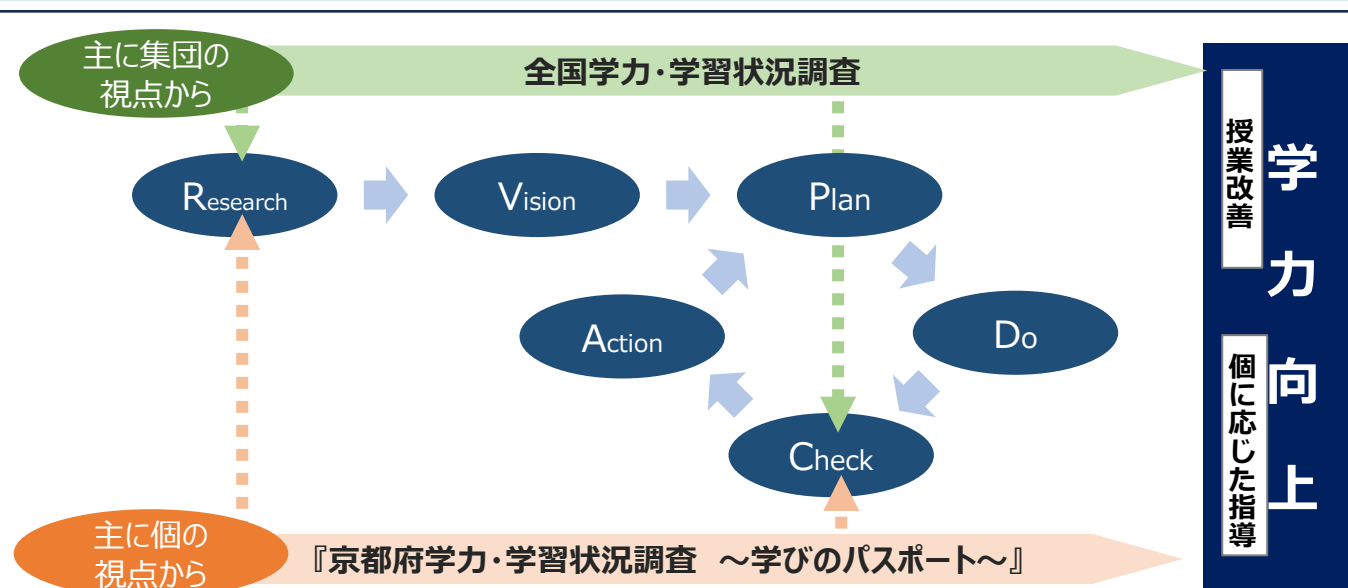
I 京都府の方針

I 京都府の方針



子ども一人一人が
「認知能力と非認知能力等を一体的に発揮」し、
 3つの資質・能力が育まれる授業づくりを

「全国学力・学習状況調査」と「学びのパスポート」の役割



2つの調査の特徴を踏まえて、**多角的な分析**による効果的な活用を！

I 京都府の方針

『京都府学力・学習状況調査 ～学びのパスポート～』とは

学力調査

小学校：国語、算数
中学校：国語、数学、英語*

*中2・中3のみ



学習状況調査

非認知能力、学習の方法
生活状況、ICT利活用の状況

3つの特徴

- ①調査問題の難易度に左右されず、学力の伸びと非認知能力等の変容を経年比較できる。
- ②学力だけでなく、非認知能力等を測ることができる。
- ③児童生徒一人一人の学力の伸びと非認知能力等の変容が見える化できる。

目指す児童生徒像及び教員像



目指す児童生徒の姿

自分自身の強み及び課題を振り返り、学ぶ意義を実感し、主体的に学習に取り組む児童生徒

自らの学習の特徴を知り、学び方を自己調整しながら学習に取り組む児童生徒

自らの変容を客観的に捉え、自ら「こうありたい」と目標設定できる児童生徒



目指す教員の姿

児童生徒の伸びと変容から自らの指導を振り返り、よりよく指導を改善できる教員

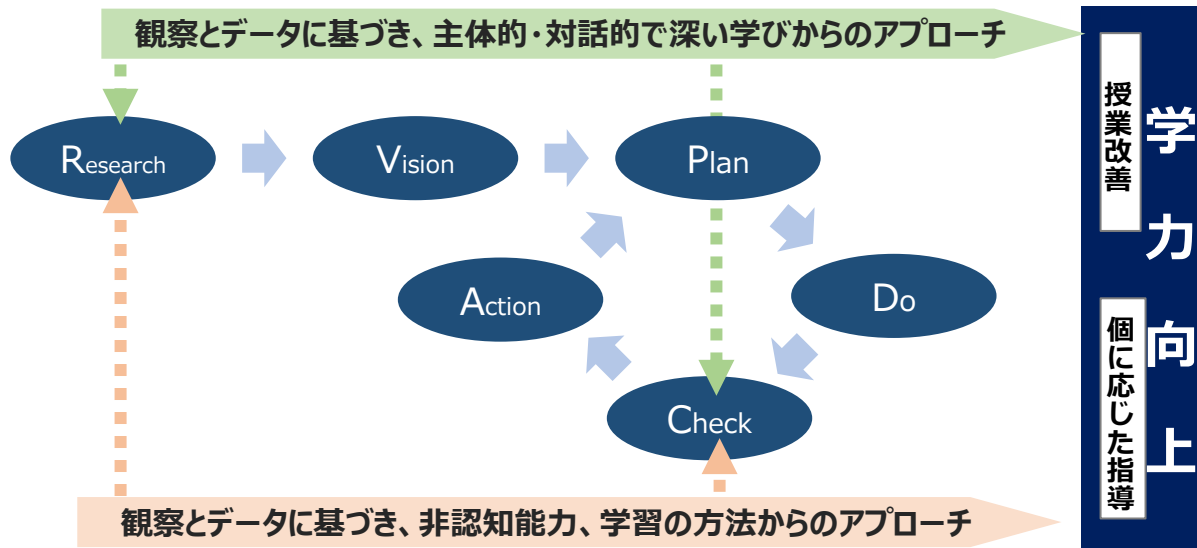
普段の観察と結果データの両面から、より多面的に児童生徒を捉えようとする教員

他の教員の良いところを結果データからも学び、より指導力を高めようとする教員

Ⅱ 結果分析及び活用

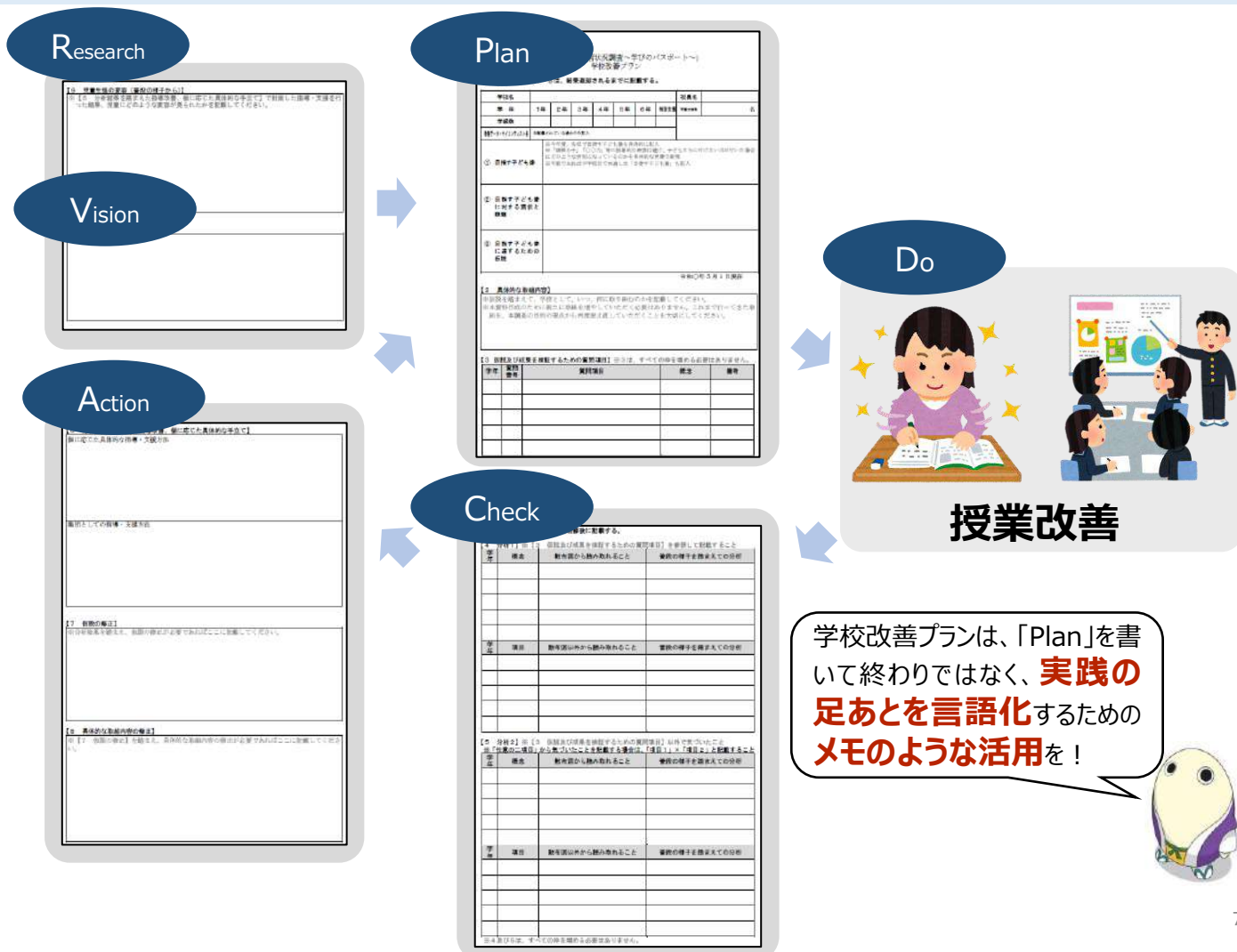
Ⅱ 結果分析及び活用～教員～

RV-PDCAサイクルの中での「学びのパスポート」の役割とは



学校改善プランを活用して、言語化していくことが有効！

RV-PDCAサイクルを循環させるための「学校改善プラン」の活用



Ⅱ 結果分析及び活用～教員～

RV-PDCAサイクルの過程を言語化するための学校改善プランの活用

学校名								校長名	
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童生徒数	名
学級数									
教育データ・サイエンティスト名	※配置されている場合のみ記入								
① 目指す子ども像	①学校教育目標や研究主題等を基に、学校（中学校区）として育成を目指す児童生徒像を具体的に記載してください。○○力等ではなく、具体的な言葉で記載してください。 ＊学校教育目標の明確化【学習指導要領（第1章総則第2の1参照）】								
② 目指す子ども像に対する現状と課題	【留意点】 ①なぜ、この「目指す子ども像」なのかを言語化できる。 ②自校の「目指す子ども像」に基づいて、授業場面での「子どもの学びの姿」を言語化できる。 ＊対象の非認知能力等が含まれていること。								
③ 目指す子ども像に達するための仮説									

令和〇年5月1日現在

豊富で多様なデータがあるからこそ、まずはゴールの姿の言語化から！

【2 具体的な取組内容】

目指す子ども像に対する取組を記載してください。その際、新しい取組を考えるだけでなく、これまでの取組が「目指す子ども像」につながるものになっているか、全教職員で明確な意図を持った取組になっているかを確認し、記載してください。

【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】※3は、すべての枠を埋める必要はありません。

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
	1及び2を踏まえ、 ・学校、学年として特に結果に注目すべきと考える質問項目と質問番号を記載してください。 ・概念質問項目対応表を基に、上で確認した質問項目がどの概念に当てはまっているかを記載してください。			

※4～9は、結果確認後の内部研修後に記入する。

【4 分析1】※【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】を参照して記載すること

学年	概念	散布図から読み取れること	普段の様子を踏まえての分析
		1③で記載した内容について、概念と、散布図から読み取れる事実を記載してください。	散布図から読み取れる事実と、普段の児童生徒の様子から、児童生徒の状況を分析してください。
学年	項目	散布図以外から読み取れること	普段の様子を踏まえての分析
		概念質問項目対応表以外の、「生活習慣」や「ICT活用」等の質問について、学校として重点的に取り組んでいる内容がある場合に記載してください。	

【5 分析2】※【3 仮説及び成果を検証するための質問項目】以外で気づいたこと ※「任意の二項目」から気づいたことを記載する場合は、「項目1」×「項目2」と記載すること

学年	概念	散布図から読み取れること	普段の様子を踏まえての分析
		1③で記載した内容以外について、散布図を見て気になる部分がある場合、記載してください。	

【6 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法
4年生のAさん・・・ 5年生のBさん・・・ 仮説と結果から、1人1人に対する具体的な手立てを記載してください。その際、可能な限り抽象的な表現は避け、「いつ、誰が、どのような指導・支援を行うか」を具体的に記載してください。
集団としての指導・支援方法
散布図上で、特定の場所に多くの児童生徒が集まっている場合、普段の様子等における共通点等を分析し、どのような取組を行うかを記載してください。

【7 仮説の修正】

※分析結果を踏まえ、仮説の修正が必要であればここに記載してください。

結果を基に、1③で立てた仮説に修正が必要な場合は記載してください。 ※結果を基に指導を振り返り、改善することは調査の目的そのものであり、ここでの修正を基に指導を行い、次の調査結果で更に検証を行っていくことが大切なポイントになります。

【8 具体的な取組内容の修正】

※【7 仮説の修正】を踏まえ、具体的な取組内容の修正が必要であればここに記載してください。

7に同じ

【9 児童生徒の変容（普段の様子から）】

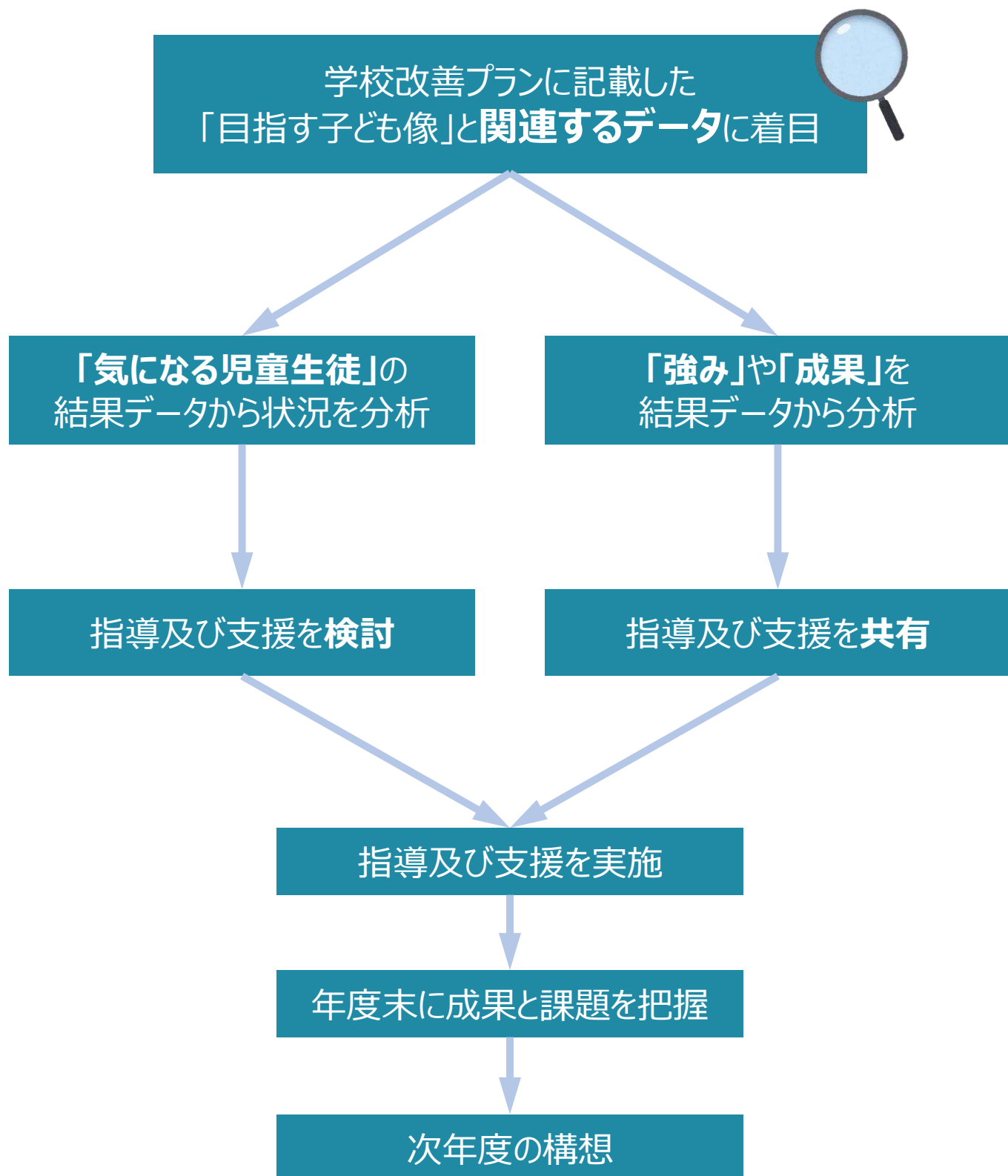
※【6 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的手立て】で計画した指導・支援を行った結果、児童にどのような変容が見られたかを記載してください。

データに関しては、次年度の学びのパスポートで検証となるため、普段の教員のみとから、児童生徒にどのような変容があったかを記載してください。
--

【10 来年度の構想】
詳細は、次年度に立てることになるため、本年度の成果と課題を踏まえ、次年度に引き継ぐことができるよう、構想を簡易的に記載してください。

「目指す子ども像」を全教職員で言語化することで、課題意識の共有を！

豊富で多様なデータの中から、見たいデータを絞っていく手順例



学校改善プランに記述を残していくことがポイント！

Ⅱ 結果分析及び活用～返却データ～

返却される帳票（結果データ）

個と集団	01_学年_学力分析シート * 散布図があるシート
個と集団	02_学年_教科に関する調査_採点結果
個と集団	03_学年_児童生徒質問調査_回答結果
集団	04_学年_教科に関する調査_問題ごとの正答率等一覧表
個	05_学年_学力分析データ（ステップ・学力値・伸び）児童生徒別
集団	06_学年_各実施主体の調査結果票
集団	07_全体_学力の伸びの状況



分析できる視点で整理すると……

集団

帳票04
各出題問題の概要や趣旨等と正答率を示す
正答率一覧表

帳票03
府の状況とも比較できるよう、グラフで示す
質問調査の回答状況

帳票06
学力の状況や変化、伸びの状況を示す
学力の状況

帳票07
学力層別の伸び率や伸びの変化を示す
学力の伸びの状況

個

帳票01
学力ステップと質問調査との関連を示す
散布図

帳票01
学力の伸びと質問調査との関連を示す
散布図

帳票01
学力の伸び方の違いによる
質問調査の回答状況の図表

帳票01
個々の状況や伸びを示す
個人カルテ

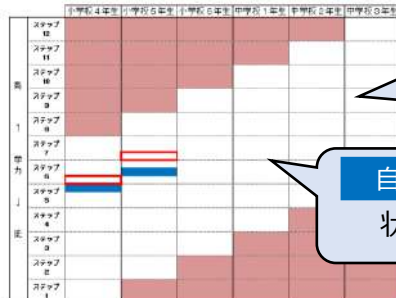
帳票02
問題別の結果や回答状況を示す
教科に関する調査の回答状況

帳票05
個々の学力の伸びや伸び悩みを示す
学力分析データ表

集団と個のデータをつないで見る（帳票06及び帳票07の活用）

集団

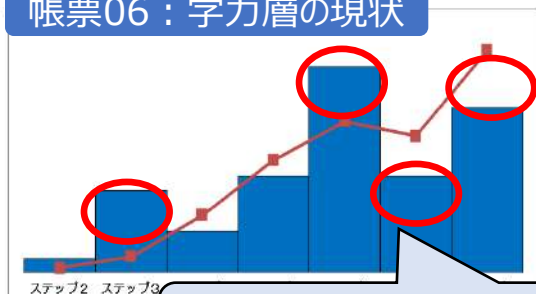
帳票06：学力ステップの平均の変化 ～学年全体の状況と変化を把握～



1 学年のステップ数は 7、
学力ステップは 21 段階

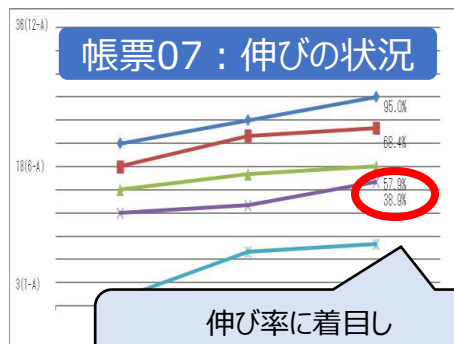
自校 と 府 を見て、
状況と変化を確認する。

帳票06：学力層の現状



府平均との比較により、
課題となる学力層を見出す。

帳票07：伸びの状況



伸び率に着目し
課題となる学力層を見出す。

帳票01：散布図



散布図で課題となる
学力層や小集団に着目する。

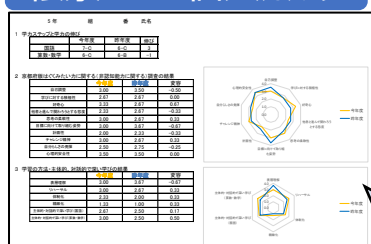
「学級に対する積極性」項目の集計結果

帳票01：基礎データ

2年間の「学力ステップ」と「伸び」							京都府版 育みたい力に		
本年度 国語	学力の 伸び 国語	前年度 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	前年度 算数・ 数学	自己 調整	学びに 対する 積極 性	好 奇 心	他者と 進ん で関 わる う る 態 度
7-B	4	6-C	7-C	-1	7-B	3.00	3.00	3.00	3.33
8-B	3	7-B	6-B	0	6-B	2.25	2.00	3.00	3.67
6-C	1	5-A	5-B	2	4-A	3.00	3.00	3.33	2.00

ステップや伸びに着目する。
同時に個の状況も把握可能。

帳票01：個人カルテ



1 人 1 人の伸びや変容の
詳細をデータで把握する。

個

他のデータとつないで見ることで、さらに詳細な分析が可能！

児童生徒数が少ない学校の事例（集団と個のデータを往還）

個

帳票01：個人カルテ

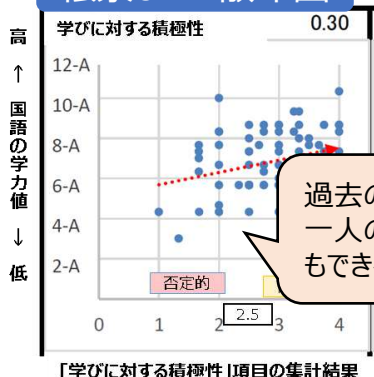


一人一人の児童生徒の学力値と非認知能力の伸びや変容に着目できるね。

私の学校は児童生徒数が少ないからこそ、個人カルテや基礎データ、散布図等で一人一人の伸びや変容の分析をしよう。



帳票01：散布図



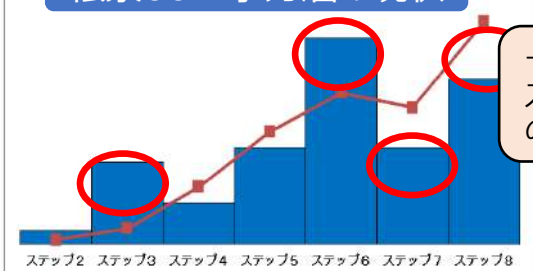
過去の散布図と比較すると、一人一人の伸びや変容を追っていくこともできるね。

帳票01：基礎データ

2年間の「学力ステップ」と「伸び」						京都府版 育みたい力に			
本年度 国語	学力の 伸び 国語	前年度 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	前年度 算数・ 数学	自己 調整	学びに 対する積極 性	好 奇 心	他者と進 んで関わ るうとす る態度
7-B	4	6-C	7-C	-1	7-B	3.00	3.00	3.00	3.33
8-B	3	7-B	6-B	0	6-B	2.25	2.00	3.00	3.67

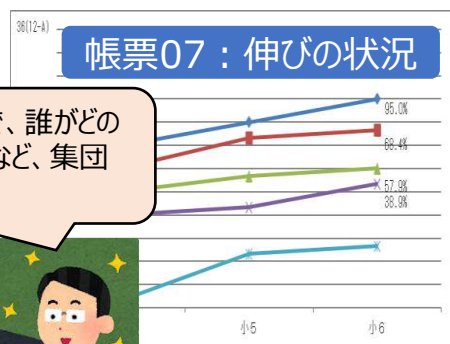
児童生徒数が少ないからこそ、集団の中での一人一人の状況に着目できるね。質問調査の詳細を「帳票03」で確認したいね。

帳票06：学力層の現状



一人一人を分析することで、誰がどのステップや学力層にいるかなど、集団の中での状況が掴めるね。

帳票07：伸びの状況



帳票06：学力ステップの平均の変化～学年全体の状況と変化を把握～



平均値との単純比較は参考になりにくかったけど、個を主にして分析することで、具体的な手立てを考えやすかったよ。



他のデータとつないで見ること、集団と個の課題が明確に！

児童生徒数が多い学校の事例（集団と個のデータを往還）

集団

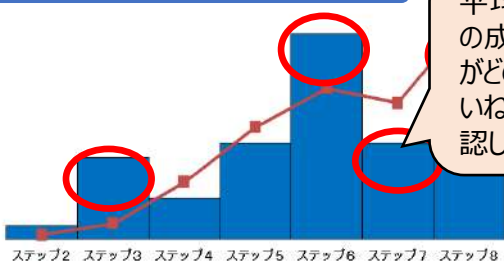
帳票06：学力ステップの平均の変化 ～学年全体の状況と変化を把握～



私の学校は児童生徒数が多いからこそ、集団のデータから分析を進めてみよう。

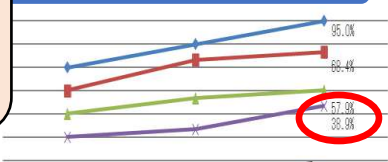
府の平均値との比較や伸びの状況から成果と課題を掴みやすいね。

帳票06：学力層の現状



平均値だけでは見えなかった学年の成果と課題が把握できるね。誰がどの学力ステップにいるか確認したいね。各学力層の伸びの状況も確認したいね。

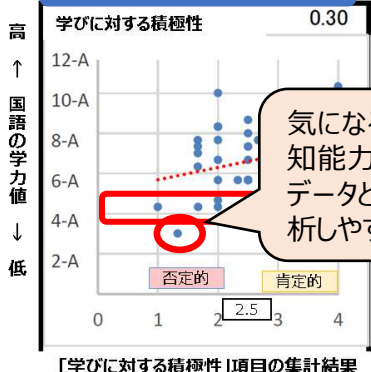
帳票07：伸びの状況



各学力層の伸びの状況を把握することで、授業改善のポイントも見えてきそう。今年度だけでなく昨年度の学力層の状況も確認したいね。

学力層の現状や伸びの状況を把握することで、個のデータとつないで見るきっかけになるね。

帳票01：散布図



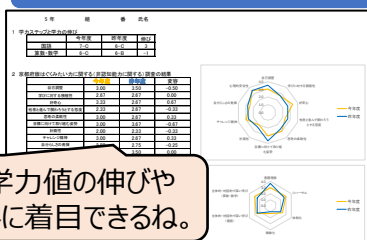
気になる学力層の児童生徒の非認知能力等にも同時に着目することで、データと観察の両輪で集団も個も分析しやすくなるね。

帳票01：基礎データ

2年間の「学力ステップ」と「伸び」		京都府版 育みたい力に					
本年度 国語	学力の 伸び 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	本年度 算数・ 数学	自己 調整	学びに 対する 積極 性	他者と 進んで 関わり あう 態度
7-B	4	6-C	7-C	-1	7-B	3.00	3.00
8-B	3	7-B	6-B	0	6-B	2.25	2.00
6-C	1	5-A	5-B	2	4-A	3.00	3.00

気になる学力ステップ等の児童生徒を特定しやすいね。非認知能力等の回答状況も一覧で把握できるから、手立ての構築のヒントになるね。質問調査の詳細は「帳票03」で確認したいね。散布図や個人カルテとつなぎながら見ると、具体的な手立てを考えやすいね。

帳票01：個人カルテ



気になる児童生徒の学力値の伸びや非認知能力等の変容に着目できるね。

個

他のデータとつないで見ることで、集団と個の課題が明確に！

集團

問題別集計結果			教科の領域等		評価の観点		問題形式		京都府		神戸・福岡・奈良県教育委員会		真保校		難易度 ステップ	
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	言語の 特徴や使い 方	情報 の使い 方、 読 解 の こ と、 聞 く こ と、 書 く こ と	読 む こ と	知 識・ 技 能	主 体的 に学 習に 取り 組む 態度	選択 式	短 答 式	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	正 答 率 (%)		無 解 答 率 (%)
1ー(1)	司会の発言の内容を注意して聞き、整理した図に適切な語句を選択する	必要に応じて記録したり質問したりしながら語の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる								90.9	0.3	89.3	0.4	91.6	0.0	6-C
1ー(2)	司会と発言者の組み合わせを選	必要に応じて記録したり質問したりしながら語の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる								81.2	0.3	81.7	0.7	99.9	0.0	7-B
問題した問題は非公開だが、概要や趣旨の 載内容から学力向上の取組の参考に！																
1三	目標を一つに決定するための話し合いの 決め方として適切なものを選択する	目標や期間を捉えながら話し合い、互いの発言を結び 付けて考えをまとめること ができる								87.4	0.3					
										49.3	0.3	48.2	1.1	45.2	0.8	9-A

平均値及び難易度ステップを
手掛かりに課題を見出す。

氏名	難易度 ステップ	1				
		－(1)	－(2)	－(3)	二	三
		京都府 平均正答率	11-C	9-A	10-A	10-A
貴校の 平均正答率	38.4					
	12.5					
	0	0	0	0	0	
	0	1	0	1	0	
	0	0	0	0	0	
	0	1	0	0	0	
	0	0	0	1	0	
	0	1	1	1	0	
	-	-	-	-	-	
	1	1	0	0	0	
	0	0	1	0	0	

2年間の「学力ステップ」と「伸び」						京都府版 育みたい力に			
本年度 国語	学力の 伸び 国語	前年度 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	前年度 算数・ 数学	自己 調整	学びに 対する積極 性	好 奇 心	他者と通 んで関わ ろうとす る態度
7-B	4	6-C	7-C	-1	7-B	3.00	3.00	3.00	3.33
8-B	3	7-B	6-B	0	6-B	2.25	2.00	3.00	3.67
6-C	1	5-A	5-B	2	4-A	3.00	3.00	3.33	2.00

表 3 新 華 電 訊

項目	每股收市價	每股派息	派息率
2007年	1.00	0.00	0.00%
2006年	1.00	0.00	0.00%

2. 華新傳媒股份有限公司(上海證券交易所:600825) 每股派息 0.05 元

項目	每股收市價	每股派息	派息率
2007年	2.00	0.05	2.50%
2006年	2.00	0.05	2.50%
2005年	2.00	0.05	2.50%
2004年	2.00	0.05	2.50%
2003年	2.00	0.05	2.50%
2002年	2.00	0.05	2.50%
2001年	2.00	0.05	2.50%
2000年	2.00	0.05	2.50%
1999年	2.00	0.05	2.50%
1998年	2.00	0.05	2.50%
1997年	2.00	0.05	2.50%
1996年	2.00	0.05	2.50%
1995年	2.00	0.05	2.50%
1994年	2.00	0.05	2.50%
1993年	2.00	0.05	2.50%
1992年	2.00	0.05	2.50%
1991年	2.00	0.05	2.50%
1990年	2.00	0.05	2.50%

3. 華新傳媒股份有限公司(上海證券交易所:600825) 每股派息 0.05 元

項目	每股收市價	每股派息	派息率
2007年	2.00	0.05	2.50%
2006年	2.00	0.05	2.50%
2005年	2.00	0.05	2.50%
2004年	2.00	0.05	2.50%
2003年	2.00	0.05	2.50%
2002年	2.00	0.05	2.50%
2001年	2.00	0.05	2.50%
2000年	2.00	0.05	2.50%
1999年	2.00	0.05	2.50%
1998年	2.00	0.05	2.50%
1997年	2.00	0.05	2.50%
1996年	2.00	0.05	2.50%
1995年	2.00	0.05	2.50%
1994年	2.00	0.05	2.50%
1993年	2.00	0.05	2.50%
1992年	2.00	0.05	2.50%
1991年	2.00	0.05	2.50%
1990年	2.00	0.05	2.50%

Figure 3: Radar chart showing the performance of China News Service (華新傳媒) across six dimensions: 新聞傳播 (News Dissemination), 社會責任 (Social Responsibility), 品牌影響力 (Brand Influence), 市場競爭力 (Market Competitiveness), 財務健康度 (Financial Health), and 員工滿意度 (Employee Satisfaction). The chart compares the company's performance (blue line) against industry peers (yellow line). The company's performance is generally lower than the industry peers across all dimensions.

Figure 4: Radar chart showing the performance of China News Service (華新傳媒) across six dimensions: 新聞傳播 (News Dissemination), 社會責任 (Social Responsibility), 品牌影響力 (Brand Influence), 市場競爭力 (Market Competitiveness), 財務健康度 (Financial Health), and 員工滿意度 (Employee Satisfaction). The chart compares the company's performance (blue line) against industry peers (yellow line). The company's performance is generally lower than the industry peers across all dimensions.

個

14

Ⅱ 結果分析及び活用～返却データ～

※ サンプルデータを掲載

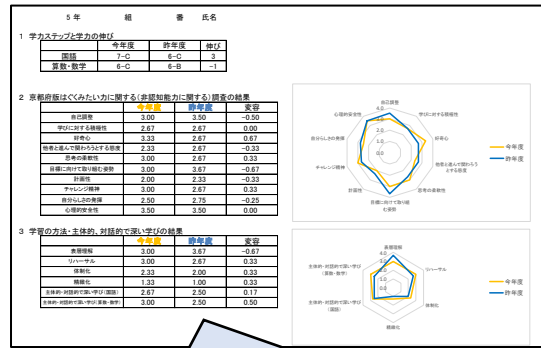
帳票01：学力分析シート：データの集計及びグラフ化

基礎データ

氏名	2年間の「学カステップ」と「伸び」							京都府版 育みたい力				
	本年度 国語	学力の 伸び 国語	前年度 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	前年度 算数・ 数学	本年度 英語	自己 調整	学びに 対する積極 性	好奇心	他者と 関わりあ うとす る態度	
	10-B	2	9-A	9-B	3	8-B	10-A	3.25	3.33	3.33	3.00	
	8-A	-2	9-B	8-C	0	8-C	11-C	3.50	4.00	3.67	3.67	
	7-A	-3	8-A	5-A	1	5-B	9-C	2.50	3.33	1.67	3.00	
	9-C	10	5-A	9-C	14	4-B	10-B	2.50	4.00	3.33	3.67	
	8-C	-7	10-B	7-B	-7	9-A	10-C	2.75	2.67	2.00	2.67	
	10-R	0	10-R	8-A	8	6-C	11-C	3.75	4.00	4.00	4.00	
※空欄の情報は学校で入力								2.50	1.00	2.00		

※空欄の情報は学校で入力

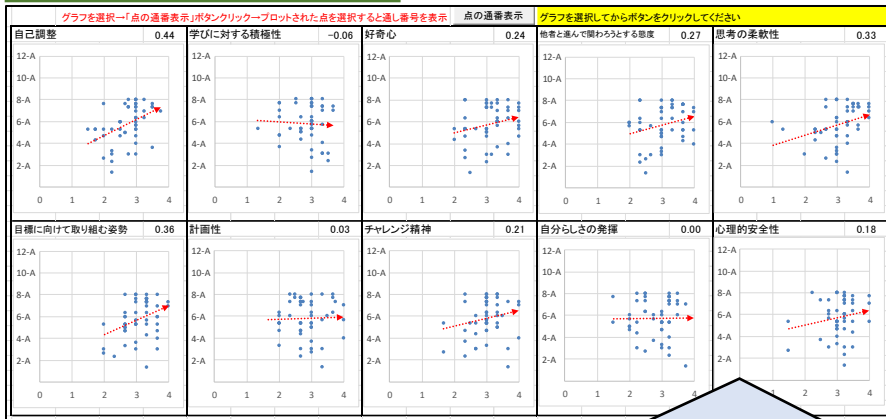
個人カルテ



学年の1人1人のデータを一覧の中で確認できる。
*「伸びなかった」「非認知能力等が2.5未満」のセルに着色。

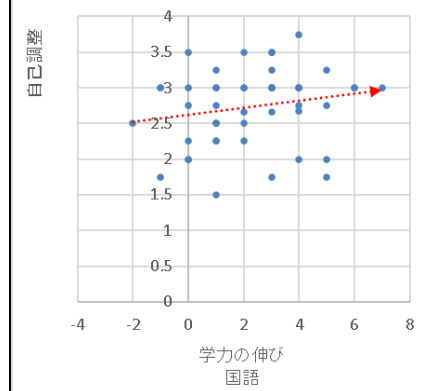
1人1人の昨年度からの伸びや変容を把握できる。

非認知能力等と学力値の傾向



・点の散らばり具合から一人一人及び学級の傾向を把握できる。
・大きく外れている点からデータ上の気になる児童生徒を把握できる。

任意の2項目の傾向



帳票02：学力分析シート：データの集計及びグラフ化

02

学校用

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～

教科に関する調査 正誤データ

〇〇立△△中学校（中学校第2学年）

						※1：正答 0：誤答 無：無し					
						国語					
						I					
						～(1)～(2)～(3)～(4)～(5)～					
学校名	学年	組	解答者 番号	出席 番号	氏名	難易度 ステップ	11-C	9-A	10-A	10-A	9-A
						京都府 平均正答率	38.4	64.4	39.7	47.9	58.9
						貴校の 平均正答率	12.5	56.9	25.0	56.9	12.5
〇〇立△△中学校	8	1	99990				0	0	0	0	1
〇〇立△△中学校	8	1	99991				0	0	1	1	0
〇〇立△△中学校	8	1	99992				0	1	0	1	0
〇〇立△△中学校	8	1	99993				0	0	0	0	0
〇〇立△△中学校	8	1	99994				0	1	0	0	0
〇〇立△△中学校	8	2	99995				0	0	0	1	0
〇〇立△△中学校	8	2	99996				0	1	1	1	0
〇〇立△△中学校	8	2	99997				-	-	-	-	-
〇〇立△△中学校	8	2	99998				1	1	0	0	0
〇〇立△△中学校	8	2	99999				0	0	1	1	0

02

学校用

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～

教科に関する調査 ローデータ

〇〇立△△中学校（中学校第2学年）

※単一選択式は「解答した選択肢
また、無は無解答、—は未実施を

学校名	学年	組	解答者 番号	出席 番号	氏名	国語				
						I				
						～(1)～(2)～(3)～(4)～(5)～				
						難易度 ステップ	11-C	9-A	10-A	9-A
						京都府 平均正答率	38.4	64.4	39.7	47.9
						貴校の 平均正答率	12.5	56.9	25.0	56.9
						問題形式	選択式 (無)	選択式 (無)	選択式 (無)	選択式 (無)
〇〇立△△中学校	8	1	99990				ウ	エ	イ	エ
〇〇立△△中学校	8	1	99991				イ	エ	ウ	イ
〇〇立△△中学校	8	1	99992				ウ	エ	イ	エ
〇〇立△△中学校	8	1	99993				ウ	エ	イ	エ
〇〇立△△中学校	8	1	99994				ウ	エ	イ	エ
〇〇立△△中学校	8	2	99995				ウ	エ	ウ	イ
〇〇立△△中学校	8	2	99996				イ	イ	イ	ウ
〇〇立△△中学校	8	2	99997				—	—	—	—
〇〇立△△中学校	8	2	99998				—	—	—	—
〇〇立△△中学校	8	2	99999				ウ	エ	ウ	エ

誰が正解だったか、不正解だったかを学年の一覧で確認できる。

目指す子ども像や課題に応じて、各帳票を **つなぐことが課題解決の手掛かり**に！

帳票03：児童生徒質問調査_回答結果

～非認知能力等だけでなく全ての質問項目の回答結果～

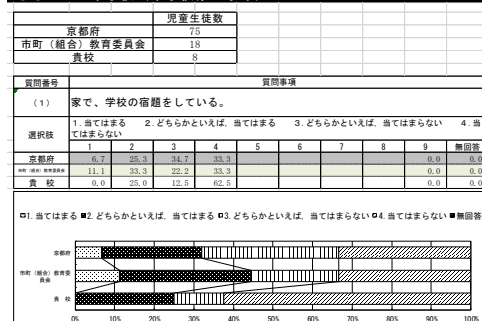
児童生徒質問調査回答結果（ローデータ）

氏名	学習（習慣）						
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
	4	1	2	1	4	4	1
	2	1	2	2	2	2	4
	2	2	1	2	2	1	2
	4	1	3	1	4	5	2
	4	4	4	2	4	4	4
	4	2	4	2	4	4	4
	4	2	3	1	4	5	4
	1	1	1	2	1	1	1
	3	2	2	1	3	3	3
	3	3	3	2	3	5	3

1人1人の回答状況を把握できる。

質問調査集計データ（グラフ有り）

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
児童生徒質問調査 集計データ
〇〇立△△中学校（中学校第2学年）



学校及び京都府、市町（組合）教育委員会の回答状況を把握できる。

質問項目一覧

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
生徒質問調査（中学校第2学年）の内容

質問番号	質問事項	選 択 肢								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
(1)	家で、学校の宿題をしている。	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない					
(2)	家で、学校の授業の予習をしている。	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない					
(3)	家で、学校の授業の復習をしている。	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない					
(4)	学習塾に通っている。（家庭教師に教わっている場合も含む）	当てはまる	当てはまらない							
(5)	授業で学んだことは、身のまわりのできごとや日常生活に活かせることが多い。	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない					
(6)	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、学習をしているか。（塾、家庭教師も含む）	2時間以上	1時間以上、2時間より少ない	2時間より少ない						
(7)	土曜日や日曜日など学校の休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、学習をしているか。（塾、家庭教師も含む）	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない				

全質問項目と選択肢を把握できる。

帳票04：教科に関する調査_問題ごとの正答率等一覧表

～問題の概要や各種正答率等の結果～

問題ごとの正答率等一覧表（国語）

集計結果					
学校	児童生徒数	学年	学年平均	教科平均	教科平均（標準）
〇〇立△△中学校	18	22	22.2	22.2	22.2
市町（組合）教育委員会	18	22	22.2	22.2	22.2
高校	8	22	22.2	22.2	22.2

分類・区分別集計結果					
分類	区分	対象問題数(問)	正答率	平均正答率	教科平均
教科の宿題等	授業の宿題等	18	22.2	22.2	22.2
	授業の宿題等（国語）	18	22.2	22.2	22.2
	授業の宿題等（算数）	18	22.2	22.2	22.2
	授業の宿題等（理科）	18	22.2	22.2	22.2
授業の進捗	授業の進捗（国語）	18	22.2	22.2	22.2
	授業の進捗（算数）	18	22.2	22.2	22.2
	授業の進捗（理科）	18	22.2	22.2	22.2
	授業の進捗（社会）	18	22.2	22.2	22.2
問題別	問題別（国語）	18	22.2	22.2	22.2
	問題別（算数）	18	22.2	22.2	22.2
	問題別（理科）	18	22.2	22.2	22.2
	問題別（社会）	18	22.2	22.2	22.2

正答率・学力ステップ一覧表（国語）

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～ 教科に関する調査 正答率・学力ステップ一覧表 【国語】 〇〇立△△中学校（中学校第2学年）					
問題番号	問題概要	正答率	学力ステップ	問題概要	正答率
1 (1)	教科の宿題等	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (2)	授業の進捗	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (3)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (4)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (5)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (6)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (7)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (8)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (9)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2
1 (10)	問題別	22.2	22.2	問題概要	22.2

学校の正答率と学力ステップを把握できる。

領域や問題別等の平均を把握できる。
問題の概要や趣旨、難易度ステップを把握できる。

目指す子ども像や課題に応じて、各帳票をつなぐことが課題解決の手掛かりに！

Ⅱ 結果分析及び活用～返却データ～

＊サンプルデータを掲載

帳票05：学力分析データ（ステップ・学力値・伸び）児童生徒別 ～1人1人の学力ステップ等の推移～

学力分析データ（ステップ・学力値・伸び）児童生徒別（国語）

令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～

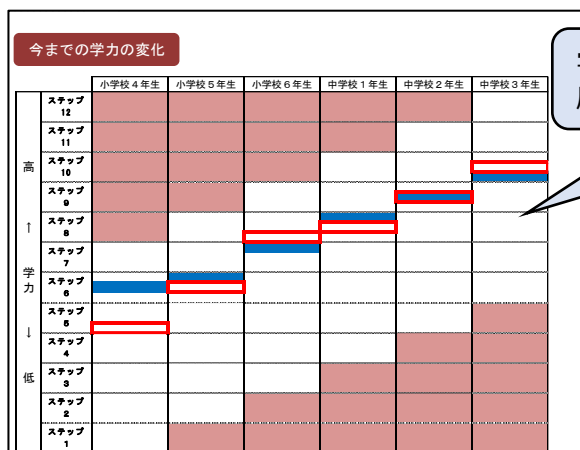
学力分析データ（ステップ・学力値・伸び）児童生徒別【国語】

〇〇立△△中学校（中学校第2学年）

年度	学校コード	学校名	解答者番号	学年	組	出席番号	学力ステップの推移		学力ステップの伸び		学力値の推移		学力値の伸び	
							R4 学力ステップ	R5 学力ステップ	R3→R4の 学力の伸び (ステップの差)	R4→R5の 学力の伸び (ステップの差)	R4学力値	R5学力値	R3→R4の 学力の伸び (学力値の差)	R4→R5の 学力の伸び (学力値の差)
R5		〇〇立△△中学校	99990	8	1		-	9-C	-	-	-	1.53	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99991	8	1		-	10-B	-	-	-	2.69	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99992	8	1		-	9-A	-	-	-	2.22	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99993	8	1		-	7-B	-	-	-	0.09	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99994	8	2		-	7-A	-	-	-	0.32	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99995	8	2		-	11-C	-	-	-	3.34	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99996	8	1		-	7-C	-	-	-	-0.14	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99997	8	2		-	-	-	-	-	-	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99998	8	2		-	9-A	-	-	-	2.18	-	-
R5		〇〇立△△中学校	99999	8	2		-	7-C	-	-	-	-0.10	-	-

1人1人の学力ステップの推移や伸びの詳細を把握できる。

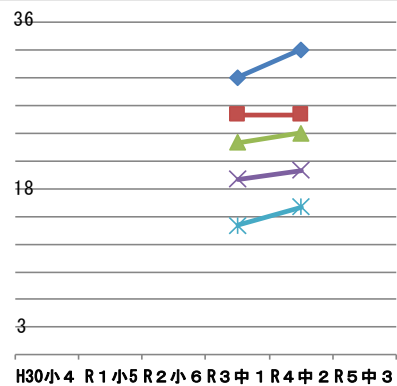
帳票06：各実施主体の調査結果票 ～学年の学力値の結果～



学年の学力ステップの伸びの状況を把握できる。
府平均との比較との比較もできる。

学力の伸びの状況

貴実施主体



各層別の伸びの変化の状況を把握できる。
線の傾きのパターンや開き方で状況を把握できる。

学力ステップのヒストグラム



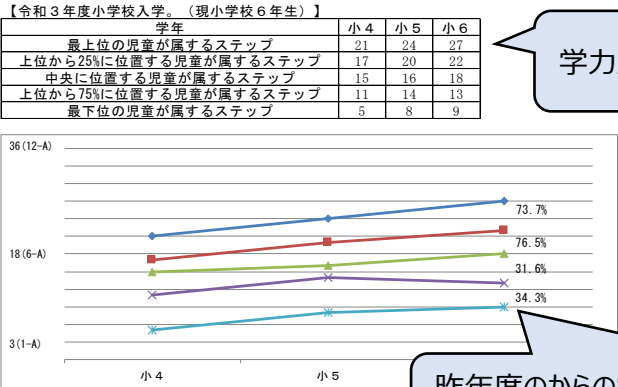
各学力ステップに属する児童生徒の分布を把握できる。
府平均との比較との比較もできる。

目指す子ども像や課題に応じて、各帳票を**つなぐことが課題解決の手掛かり**に！

帳票07：学力の伸びの状況

～学校の伸びの詳細結果～

学力の伸びの状況（グラフ）



昨年度のからの学力層別の伸び率の状況も把握できる。
自校の学力層を強みや課題を把握できる。

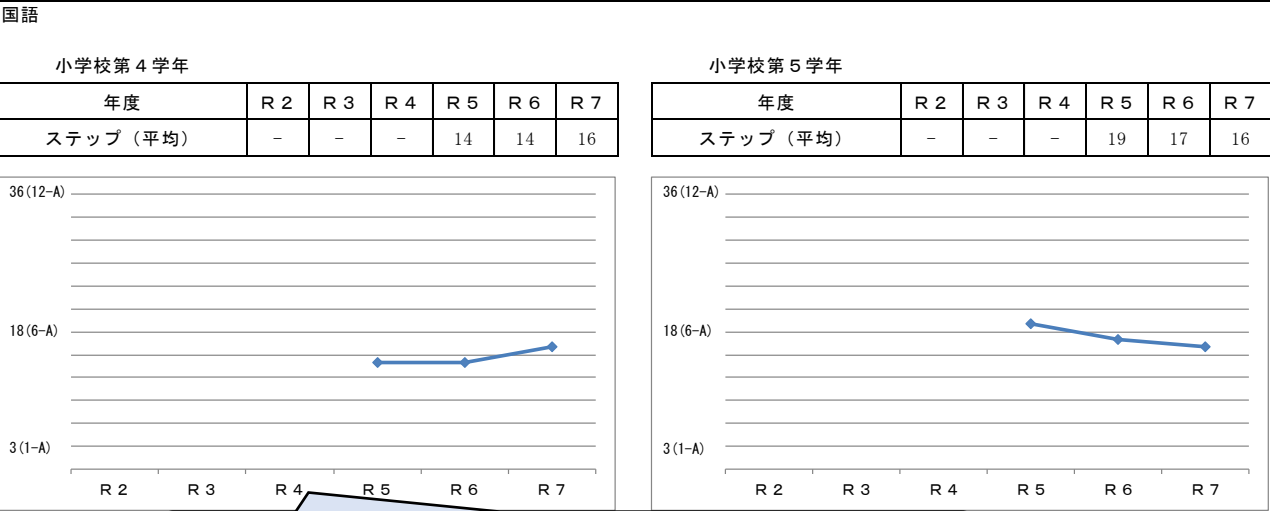
学力の伸びの状況（表）

国語																
学年	R 7 学力推定結果								R 6 学力推定結果							
	学力ステップ	学力値平均	標準偏差	最大値	75パーセンタイル	中央値	25パーセンタイル	最小値	学力ステップ	学力値平均	標準偏差	最大値	75パーセンタイル	中央値	25パーセンタイル	最小値
小学校4年生	4-A	-2.35	1.17	0.37	-1.44	-2.58	-3.06	-4.90	-	-	-	-	-	-	-	-
小学校5年生	6-C	-1.04	1.17	2.11	-0.34	-1.21	-1.62	-4.41	5-B	-1.62	1.15	1.71	-0.79	-1.71	-2.40	-3.70
小学校6年生	6-A	-0.57	1.56	2.88	0.61	-0.64	-1.94	-3.21	6-B	-0.75	1.73	5.80	0.20	-1.27	-1.70	-3.65

算数																
学年	R 7 学力推定結果								R 6 学力推定結果							
	学力ステップ	学力値平均	標準偏差	最大値	75パーセンタイル	中央値	25パーセンタイル	最小値	学力ステップ	学力値平均	標準偏差	最大値	75パーセンタイル	中央値	25パーセンタイル	最小値
小学校4年生	4-A	-1.30	0.82	0.37	-0.75	-1.28	-1.98	-3.59	-	-	-	-	-	-	-	-
小学校5年生	5-A	-0.49	0.78	1.42	0.07	-0.58	-0.98	-2.30	5-B	-0.79	0.67	1.35	-0.31	-0.72	-1.23	-2.81
小学校6年生	6-B	-0.23	0.87	2.78	0.25	-0.33	-0.78	-1.77	5-A	-0.53	0.85	1.98	-0.02	-0.69	-1.09	-2.28

各学年の学力推定の詳細を把握できる。

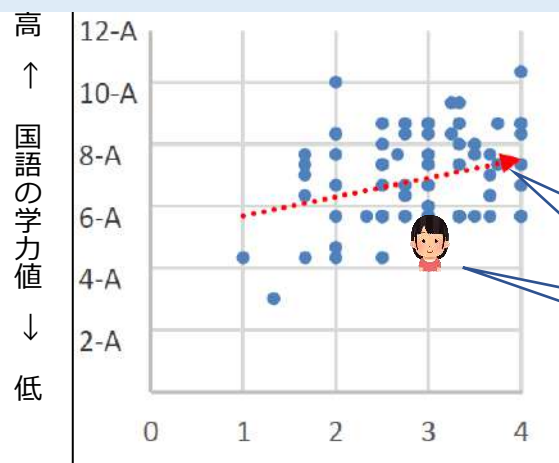
異なる年度の同学年の比較（グラフ）



異なる年度で同学年比較することで学力課題の把握にもつながる。

目指す子ども像や課題に応じて、各帳票を **つなぐことが課題解決の手掛かり** に！

帳票01：散布図の見方



【相関係数】

1 ならば点が一直線に右上がりに、
-1 ならば点が一直線に右下がりに並ぶ。
0.30なので、ゆるやかな右上がり傾向を示している。

相関係数は散らばり方の傾向を示す。
×高いから良い。 ×低いから悪い。

【点の分布の傾向を表す矢印（統計処理による）】

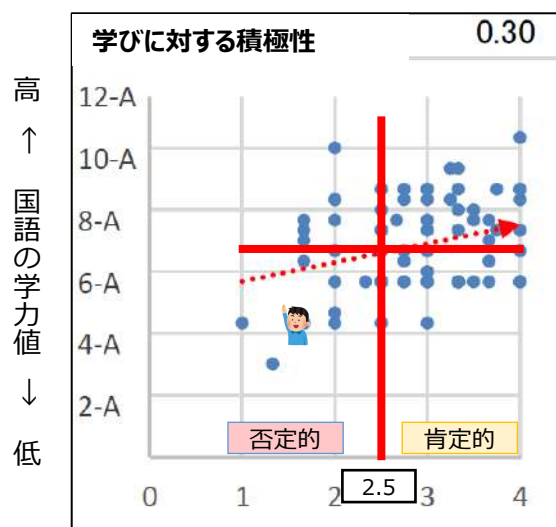
右上がりなので、「**学びに対する積極性**」の質問に**肯定的に回答している児童生徒が、国語の学力値が高い傾向にある**ことを示している。

「学びに対する積極性」項目の集計結果が3.0、国語の学力値が「5 - C」の生徒を表す。

「学びに対する積極性」項目の集計結果

- **点の散らばり具合**から、一人一人及び学級の傾向を把握しやすい。
- **特異点（外れ値）**から、データ上の気になる児童生徒を把握しやすい。
- **点が重なっている場合があるので**、エクセルファイルで確認することで正確に把握できる。

帳票01：散布図の見方例①（集団のデータから気になる個を分析）



「学びに対する積極性」項目の集計結果



この子どもに注目してみましょう。

データからは、どんなことが分かりますか。

- 国語の学力値は相対的に低い
- 学びに対する積極性の質問項目には否定的に回答
* 2.5を基準に判断

「学びに対する積極性」の項目を確認し、
どんな子どもかを想像してみてください。

- 分からないことがあっても、調べたり、人に聞いたりということをあまりしない**のではない**か。

自己評価と教師との見取りにギャップはないか？
否定的な回答だけでも、自己評価が低いだけの**可能性**も

可能性という言葉で分析を終わらせないためには・・・

個人の詳細のデータが掲載されている

個人カルテ

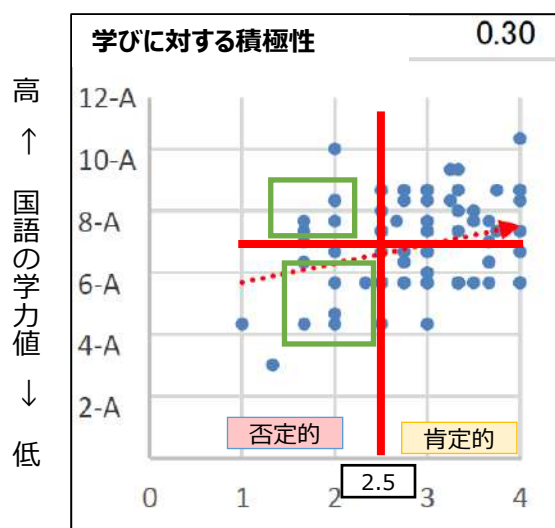
と**つないで見る**

複数の教職員で、個人の詳細のデータと観察の両輪で分析
&
他教科及び他項目の回答状況を確認

教職員間で意見を出し合い
多面的・多角的な分析と指導支援の確立へ！

帳票01：個人カルテ

帳票01：散布図の見方例②（集団のデータから気になる小集団を分析）



「学びに対する積極性」項目の集計結果

個人だけでなく、
気になる小集団にも着目する。

**の枠の中にいる児童生徒は誰か？
どのような傾向があるのか？**

基礎データ

とつないで見ることで、複数の個人の情報を一度に閲覧することができる。

列を並び替えることで、気になる層を容易に確認することも可能に！

2年間の「学力ステップ」と「伸び」						京都府版 育みたい力に関する調査（非認知能力に関する）									
本年度 国語	学力の 伸び 国語	前年度 国語	本年度 算数・ 数学	学力の 伸び 算数・ 数学	前年度 算数・ 数学	自己 調整	学びに 対する 積極 性	好 奇 心	他者と 関 わり あ う よ う な 傾 向	思 考 の 柔軟 性	目標に向 けて取 組む意 志	計画 性	チレン ジ精神	自分 の 強 み	心理 的 安 全 性
6-C	0	6-C	6-C	-1	6-B	2.25	2.00	2.33	3.00	3.00	2.67	2.00	3.00	3.00	3.00
6-B	1	6-C	7-B	2	6-A	3.00	3.00	3.33	2.00	3.33	3.33	2.33	3.00	2.75	3.25
6-A	1	6-B	6-B	-1	6-A	2.50	3.00	3.33	3.67	3.33	3.67	3.67	3.33	3.50	3.25
6-C	1	5-A	6-B	1	6-C	1.50	2.00	2.33	2.33	3.00	2.67	1.67	3.25	3.00	3.00
6-A	1	6-B	8-A	3	7-A	2.50	3.00	4.00	2.00	3.00	2.67	1.00	2.67	3.00	3.25
6-C	1	5-A	5-A	0	5-A	3.00	2.67	3.00	4.00	3.00	2.67	2.67	2.00	3.00	3.00
6-A	2	6-C	6-A	2	6-C	2.00	3.00	3.33	2.33	1.00	3.67	4.00	2.33	2.00	2.75
6-C	3	5-C	5-C	-2	5-A	1.75	2.67	2.00	3.67	2.33	3.33	2.67	2.67	2.25	3.50
6-C	4	4-A	5-B	1	5-C	2.00	3.00	2.33	2.33	2.67	2.00	3.00	1.67	3.00	1.50
6-C	5	4-B	6-A	0	6-A	2.00	3.00	4.00	3.67	3.67	4.00	2.00	3.00	1.50	2.00
6-C	5	4-B	4-B	0	4-B	1.75	2.33	3.00	3.00	2.67	3.67	2.00	3.00	3.25	3.25
8-B	6	4-B	8-B	3	7-B	3.00	4.00	4.00	2.67	3.67	3.00	4.00	3.00	2.00	3.75

帳票01 基礎データ

学年の1人1人のデータを一覧化。
「伸びなかった」「非認知能力等が2.5未満」のセルに着色。

複数の教職員で、複数名のデータと観察の両輪で分析
&
他教科及び他項目の回答状況を確認

教職員間で意見を出し合い多面的・多角的な分析と指導支援の確立へ！

他のシートや帳票と**とつないで見る**ことで、さらに詳細な分析が可能！

非認知能力等のデータの留意点

「個人カルテ」と「個人結果票」で見える化



- 項目ごとに、
- ・よく当てはまる 4
 - ・どちらかといえば当てはまる 3
 - ・どちらかといえば当てはまらない 2
 - ・当てはまらない 1
- とし、概念ごとに集計

「高いから良い」「低いから悪い」

なぜなら・・・

非認知能力等の集計方法



Aさんの自己評価

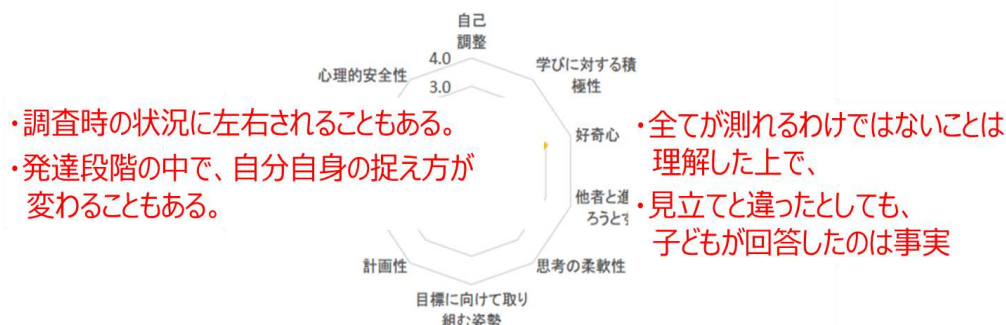
自己調整	学習等の過程に能動的に関わり、自己の認知活動や行動をコントロールしながら目標達成に向かおうとする姿勢	3.25
(30)	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	4
(31)	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。	4
(32)	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。	3
(33)	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。	2

Aさんの「自己調整」は3.25と算出

回答基準が一人一人異なるため、教職員の観察と合わせた分析が重要！

教育データを扱う上での留意点

学力と非認知能力等や学習の方法の傾向をもとに、1人1人への指導に生かすために



調査結果が示しているんだから、この子は好奇心以外の非認知能力が育っていないんだな。

そもそも、非認知能力は測ることができないでしょ。私の普段の見立てとは全然違うから、このデータは間違いよ。

データ VS 教師の観察

データと教師の観察の**二項対立に陥らない**こと



好奇心の高さはどんな場面で発揮されているのかな？好奇心以外が低いけれど、普段の様子はどうだろう？

私たちの普段の見立てとは少し違う印象があるけど、見えていない部分があったのかな？

データ と 教師の観察 の両面から

これまで以上に**子どもの理解につなげ**、1人1人の指導・支援の充実へ

教育データを扱う上での留意点

○データで**単純に把握しきれないものもある**

できるだけ多角的に分析すること

- ・データで測れているものは何か？
- ・捉えられていない要素は何か？
- ・相関係数のみで見えていないか？
- ・対象者数を踏まえて見ているか？

○指標化した**数値の達成が目的化しがち**

常に本来の目的（目指す子ども像）に立ち返る

- ・手段が目的になっていないか？
- ・望ましくない活用となっていないか？
- ・平均値に偏っていないか？

Ⅱ 結果分析及び活用～データの見方・捉え方～

データと教員の観察との両輪で結果の背景も含めて分析し改善

活用推進校での実践例～学びのパスポートの分析手順～

①基礎データチェック



②散布図で状況把握



③個人カルテで1年前と比較



④指導の手立てを協議



分析時の書き込み例～散布図を軸に「個人カルテ」や「伸び」のデータも活用～

データと観察との両輪での分析を基に、
気付いたことや現状について書き込み、
手立てを検討し書き込む。

「個人カルテ」も活用

「伸び」に関する散布図も活用

学力値と非認知能力等
の散布図を活用

塗りつぶし箇所は
個人名を記載

自校の体制と扱うデータは？

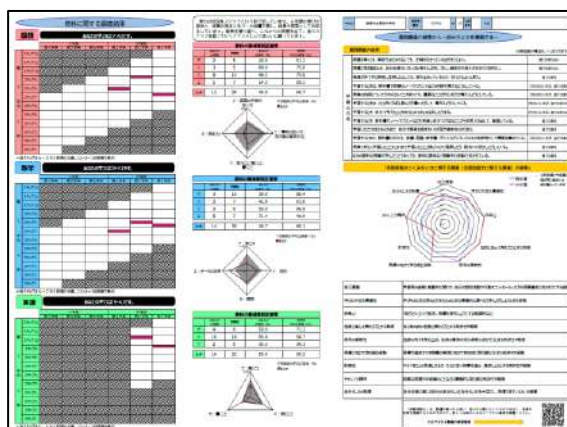
担当者だけでなく、**全教職員それぞれの視点で**分析し、手立てを検討！

保護者及び児童生徒に返却される個人結果票

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
個人結果票【中学の国語】

※ 個人結果票は、調査結果を基に作成されたもので、調査結果を正確に反映しているものではありません。調査結果を正確に反映しているものではありません。調査結果を正確に反映しているものではありません。

項目	国語	算数・数学	理科	社会	外国語	総合	体育・保健	音楽	美術	道徳	生活	総合
1. 国語の基礎知識・基本技能	85.0	78.0	82.0	80.0	75.0	70.0	65.0	60.0	55.0	50.0	45.0	40.0
2. 国語の応用知識・基本技能	80.0	73.0	77.0	75.0	70.0	65.0	60.0	55.0	50.0	45.0	40.0	35.0
3. 国語の総合的な能力	75.0	68.0	72.0	70.0	65.0	60.0	55.0	50.0	45.0	40.0	35.0	30.0
4. 国語の学習態度	80.0	73.0	77.0	75.0	70.0	65.0	60.0	55.0	50.0	45.0	40.0	35.0
5. 国語の学習成果	85.0	78.0	82.0	80.0	75.0	70.0	65.0	60.0	55.0	50.0	45.0	40.0



調査結果や回答内容を視覚化

個人結果票を活用した振り返りと今後の学び方の目標設定

資料の一部を提示

京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～振り返り用（小4・小5用）

自分の学びの様子と成長を振り返ろう

年 組 番 名 前

「個人結果票」を準備しましょう。

1 「教科に関する調査結果」を見て、よくできたところ、できるようになりたいところを見つけて書きましょう。

よくできたところ

できるようになりたいところ

2 1で書いた「できるようになりたいところ」をできるようにするためには、どのような場面、どのような学習をしようと思うかを書きましょう。「調査結果の結果（学習の状況）」も参考にしながら書きましょう。

このように、このように書きましょう

3 「京都府版よくみえ力に関する調査（非認知能力に関する調査）の結果」を見て、自分の良さを見つけ、大切にしたいこと、これからがんばってみたいことを書きましょう。

自分の良さ

大切にしたいこと、これからがんばってみたいこと

参考資料 個人結果票返却時の流れ

※一例をお示しします。返却につきましては、各校の実態に応じて工夫してください。

【小4～中1】

個人結果票の返却（○分）	「これから、京都府学力・学習状況調査～学びのパスポートの結果を返却します。」 ※一人一人に個人結果票を返却する。 「振り返りシートを配布します。個人結果票を見ながら自分の学びの様子と成長を振り返りましょう。」 ※振り返りシートを配布する。
個人結果票の見方と振り返りシートの記入（○分）	「個人結果票の見方と振り返りシートの記入の仕方を説明します。説明を聞いて、記入をしていきましょう。」 「個人結果票の表面には、各教科でどんな問題が出題されていたのか、正解だったか不正解だったかが載っています。裏面の左側には、教科の結果がステップで示されています。また、各教科の領域別の正答率も示されています。その部分を見ながら、よくできたところや、できるようになりたいところを見つけて書きましょう。」

2 「京都府版よくみえ力に関する調査（非認知能力に関する調査）の結果」を見て、自分の良さを見つけ、大切にしたいこと、これから頑張りたいことを書きましょう。

1 レーダーのバランスを基に、自分の特徴を振り返らせてください。その際、数値が4.0に近いかどうかではなく、その児童生徒自身の中で、どのような特徴があるかについて振り返るよう指導をお願いします。
2 自分が得意だと思っていたこと、自分でも気づいていなかった良さ等に目を向けるよう支援をしてください。また、「今の自分は○○だから、こんなことができるようになりたい」という思いが持てるよう支援をお願いします。

当てはまる、当てはまらない基準は、児童生徒1人1人異なります。数値が4.0に近いから良い、数値が1.0に近いから悪いというものではありません。数値が低いから何ができていないわけでもありません。児童生徒が、自分自身をどう捉えているのかを理解し、良いところを見つけて伸ばしたり、なりた自分イメージしたりする材料となるよう活用してください。くれぐれも、「数値を4.0に近づけるために何をしなければいけないのか」という指導にならないようにお願いします。

【1、2で書いたことに対する2】

教員向け資料

自校の返却方法は？

各学年の様式

* ダウンロード及び編集可能

「答えさえ分かればいいの？」という問いかけや交流も可能！

Ⅲ 学びのパスポートから見えてきたこと

Ⅲ 学びのパスポートから見えてきたこと～学力値が伸びた児童生徒の割合～

意味理解（概念的な理解）が不十分で長期記憶に至っていないのでは？

単位(%)

	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	75.9	65.6	71.0	56.6	62.0
算数・数学	72.2	65.5	76.0	63.4	66.5
英語					69.7

自校の伸び（％）＝伸びた児童生徒数÷受検者数×100

学力ステップが上がったと判断する3つの要素

- ①昨年度学んだ内容ができること
- ②一昨年度までに学んだ内容もできること
- ③昨年度より難易度の高い問題が解けること

Ⅲ 学びのパスポートから見えてきたこと～令和7年度の各教科の傾向～

令和7年度 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～ 各教科の分析 <算数・数学科>

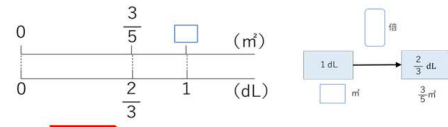
見える課題

下学年の方が正答率が高い問題 ⇒ 深い理解に至っていない問題？

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
文章を読み、一方の値を基準としてもう一方の値を求める	分数の除法の計算の仕方を考え、その計算ができる	R7 中 1	R7 中 2
		38.8%	37.0%

⇒「一方を基準としてもう一方の値を求める」
その際に分数の除法を使うということは・・・

$\frac{2}{3}$ dLで $\frac{3}{5}$ mlぬれるペンキがあります。
このペンキ 1 dLでは何mlぬれますか。



めあて 分数÷分数の計算のしかたを考えよう。



問題の概要	出題の趣旨	正答率	
小数のわり算を計算する	小数の除法の計算ができる	R7 小6	
		71.9%	
文章を読み、小数倍の場面を表した式として正しいものを選ぶ	小数倍の場面とテープ図を関連付けることができる	R7 小5	R7 小6
		26.5%	38.0%

計算はできるが...



小数の計算はできるが、テープ図への関連付けはできない

問題の概要	出題の趣旨	正答率	
与えられた場面について、列車の速さを求める	時間と時刻を示す表から必要な情報を取り出し、速さを求めることができる	R7 小6	R7 中 1
		9.9%	15.6%

速さが何を表しているのかが理解できていないのではないかな

改善の方向性

共通の課題は、何を「1」と見るのかが曖昧であること、割合の見方が十分でないことに…
⇒様々な学年、単元であっても課題は共通していることに気付かせる。
なぜそうなるのかを正しく理解し、基礎・基本の考えをどの学習段階であっても大切にする。

令和7年度 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～ 各教科の分析

<国語科>

分析を授業に活かす視点

教科書「学習のてびき」の項を参考に

学習のてびき

興味をもつ

- ・文章を読んで、どんなことが分かったか交流してみよう。
- ・分かったことや、納得できた／できなかったことについて話してみよう。

文章の構成に着目して読み、筆者の考えを捉えよう。
また、筆者の意見に対する自分の考えを捉えよう。

・文中に複数の「例」が挙げられている理由をたずねよう。
・筆者の考えを捉えよう。
・文章の構成について話し合ってみよう。

ステップ1

☆それぞれの段落に書いてある内容を確認しよう。
☆10ページと11ページの図について、詳しく説明している段落をそれぞれ見つけよう。
☆筆者は、第6段落で自分の考えを書いています。筆者が同じ考えをもつ一度書いてある段落を探してみよう。
☆筆者は、第6段落に「筆者の考え」が書かれているのを見えよう。

ステップ2

☆1からの段落までに書かれた内容と6段落の内容は、どのような関係ですか。説明してみよう。
☆「事例A」と「事例B」を、対比しながら説明しているのはどの段落ですか。
☆それぞれの段落の内容を要約しよう。

ステップ3

☆本文の内容に対する自分の考えをまとめよう。
☆「伝える相手を知覚して書く」
【自分の例を挙げながら書く】
【教科書本文を引用して書く】
【内容を要約して書く】

ステップ4

☆考えたことを交流しよう。
☆それぞれの段落の関係を着目して読むことが、自分の考えを伝えるときに、どんなことに気を付けようと思えますか。

「内容」を読み取る形式の問題
◎比較的心得。

・学力調査や一般的なテストでは、本文中に書いてあるものの中から「適切なものを見つめる」「答えを探す」形が多く（※近年この形式は減少しつつある印象）、正答率は比較的高い。
「聞くこと」等についても同様の傾向が見られる。
☆説明的な文章や文学的な文章をはじめとした文章に「書いてあること」を丁寧に読み取っていく時間をかけて内容読解を行う形の授業は充実している。

R7 学びのパスポート 国語
思考・判断・表現

小5【読むこと】
15(1)…「叙述を基に内容を捉え具体例として適切なものを選択する」
(段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる)
→正答率61.4／無解答率1.9／ステップ6-A

小6【読むこと】
13(1)…「登場人物の様子の説明する行動を人間関係を表した図を基に選択する」
(言葉の意味を理解し、物語の出来事を読み取ることができる)
→正答率69.3／無解答率0.3／ステップ7-C

中1【読むこと】
12(2)…「描写を基にした内容を把握し選択する」
(登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる)
→正答率82.2／無解答率0.3／ステップ7-C

小5【聞くこと】
1(1)…話の中心に気を付けて聞いた内容を選択する
(必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる)
→正答率98.3／無解答率0.1／ステップ2-C

令和7年度 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～ 各教科の分析

<国語科>

分析を授業に活かす視点

教科書「学習のてびき」の項を参考に

学習のてびき

興味をもつ

- ・文章を読んで、どんなことが分かったか交流してみよう。
- ・分かったことや、納得できた／できなかったことについて話してみよう。

文章の構成に着目して読み、筆者の考えを捉えよう。
また、筆者の意見に対する自分の考えを捉えよう。

「文章の構成」や「表現の効果」「理由や根拠」などを読み取ったり、自分の考えを形成したりする必要がある問題

ステップ1

☆それぞれの段落に書いてある内容を確認しよう。
☆10ページと11ページの図について、詳しく説明している段落をそれぞれ見つけよう。
☆筆者は、第6段落で自分の考えを書いています。筆者が同じ考えをもつ一度書いてある段落を探してみよう。
☆筆者は、第6段落に「筆者の考え」が書かれているのを見えよう。

ステップ2

☆1からの段落までに書かれた内容と6段落の内容は、どのような関係ですか。説明してみよう。
☆「事例A」と「事例B」を、対比しながら説明しているのはどの段落ですか。
☆それぞれの段落の内容を要約しよう。

ステップ3

☆本文の内容に対する自分の考えをまとめよう。
☆「伝える相手を知覚して書く」
【自分の例を挙げながら書く】
【教科書本文を引用して書く】
【内容を要約して書く】

ステップ4

☆考えたことを交流しよう。
☆それぞれの段落の関係を着目して読むことが、自分の考えを伝えるときに、どんなことに気を付けようと思えますか。

☆話し手。

た「読む」「話す」「聞く」「書く」といった活動を設定するだけでなく目標を明確化し、系統性をもって資質能力を育成するための「意図のある活動」を充実させる必要がある。

R7 学びのパスポート 国語
思考・判断・表現

小4【読むこと】
15(2)…場面の移り変わりに注意して読むこととして適切なものを選択する
(登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる)
→正答率50.2／無解答率3.2／ステップ7-B

小6【読むこと】
15(3)…「文章の書かれ方について感想を交流している会話文に適切な語を挿入する」
(文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる)
→正答率37.0／無解答率2.0／ステップ9-A

中2【読むこと】
13(1)…「文章の構成や展開を理解し適切な組み合わせを選択する」
(文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる)
→正答率36.6／無解答率0.6／ステップ10-A

中3【読むこと】
14(3)…文中の例示部分は何を示すための例であるか適切な内容を選択する
(内容を読み取り、その例示を読み取ることができる)
→正答率39.5／無解答率0.7／ステップ12-C

見える課題

■ つまづきが見られる点

情報の照合：英文＋図表・掲示板の内容を照合
 具体情報の把握：移動手段・目的などを文脈から読み取り

■ 伸びの差の分析

項目	伸びの差	傾向
情報の照合	24.7	複数情報の統合が苦手、細部の見落とし
表現理解	24.3	語彙・表現の理解不足
具体情報の読み取り	26.9	時系列・代名詞等の把握が不十分

■ 背景にある授業の特徴

精読中心で目的が限定的な授業
 統合的思考が育ちにくい、一問一答型の授業
 実用的な「使う」活動が不足する授業
 視覚情報との連携が弱い授業

改善の方向性

読解の目的を明確に：「何を伝えたいか？」を意識
 情報の統合を促すこと：英文＋図表の照合・比較タスク
 実用的な文脈を活用：掲示板・手紙・メールなど
 英語で考える活動：「なぜそう思う？」を英語で説明

授業アイデア例

次の英文を読んで、その内容を最も適切に表しているグラフを、下の1から4までのの中から1つ選びなさい。

In 2005, about 1,000 tourists from abroad came to Miami City. During the next ten years, the number went up. Over 2,000 tourists came to Miami City in 2015. The number of tourists from Miami City to other countries didn't go up.

■ 興味を引く導入

「（写真や地図を見せて）Miamiって
 どんなんところか知っていますか？」



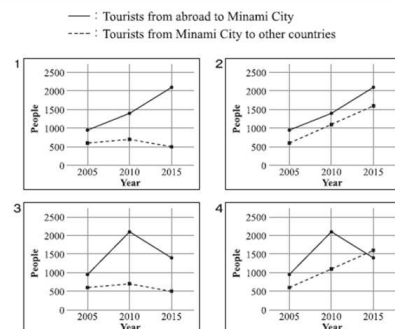
■ 根拠を本文から探す活動

「英文が表すグラフは？その根拠も本
 文から探してみましょう！」



■ 言語ポイントの確認

「グラフの長い期間にわたる変化を説
 明するときは、『during』や『over』など
 が使われていますね！」



■ 数量と時系列の変化に注目する活動

「2005年と2015年で何が変わりましたか？」
 「どのグラフがその変化を表していますか？」

令和7年度全国学力・学習状況調査でも同様の傾向

小学校 第6学年算数

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



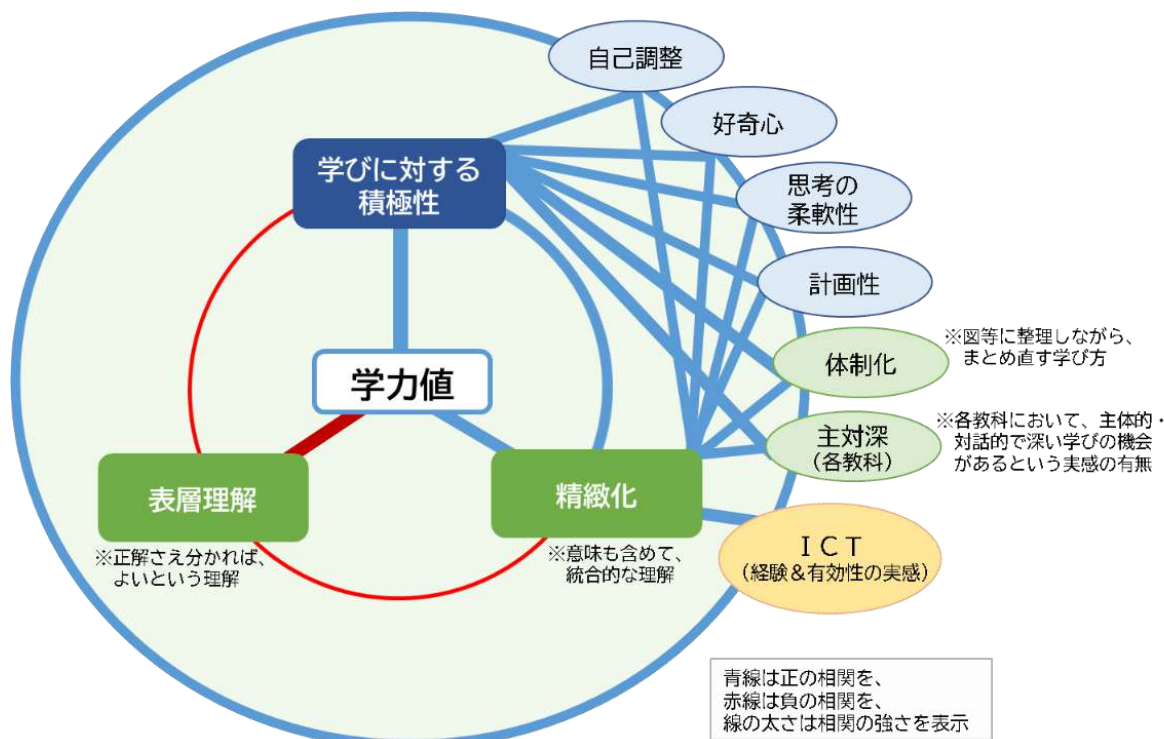
府平均：85.7%
全国平均：81.3%
※1.7%の児童が2/5と解答

府平均：33.8%
全国平均：35.0%
※約13%の児童が
小数で解答

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

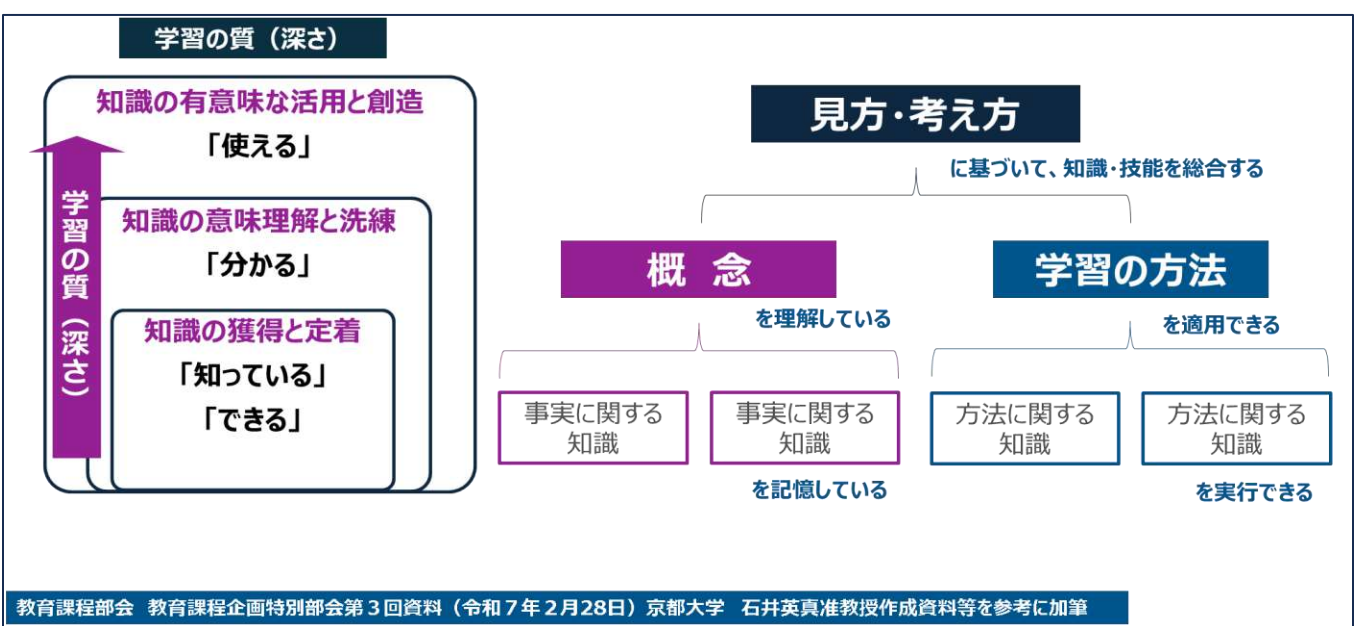
手続き的な理解に終始せず、**意味理解（概念的な理解）**を！

Ⅲ 学びのパスポートから見えてきたこと～学力値と非認知能力等との関連～



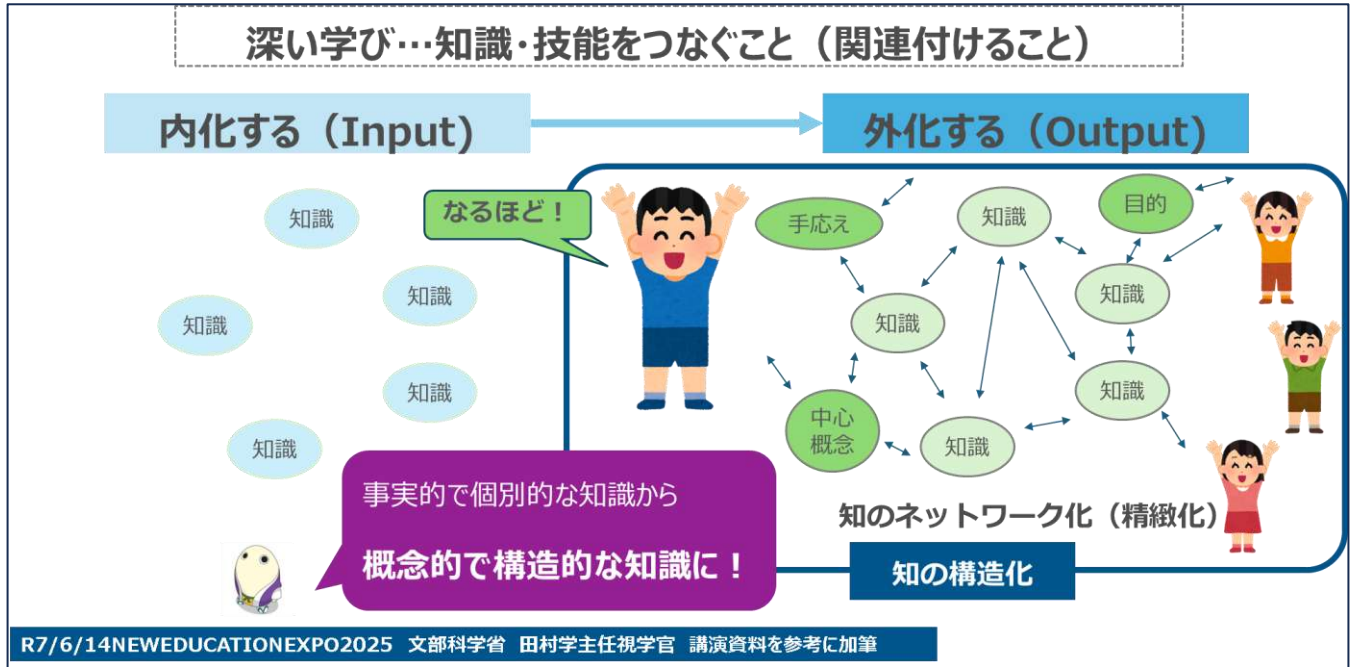
学力値と学びに対する積極性、
学力値と**精緻化（意味も含めて統合的な理解）**との間に相関関係が！

覚えたことを再現するだけでなく、意味理解（概念的な理解）の必要性



子どもたちの**学びの質**を、できるレベルに留めず、意味も含めて分かるレベルへ、さらには、使えるレベルへと引き上げ、思考力、判断力、表現力等を働かせながら、生きて働く知識・技能が身に付くような授業づくりを

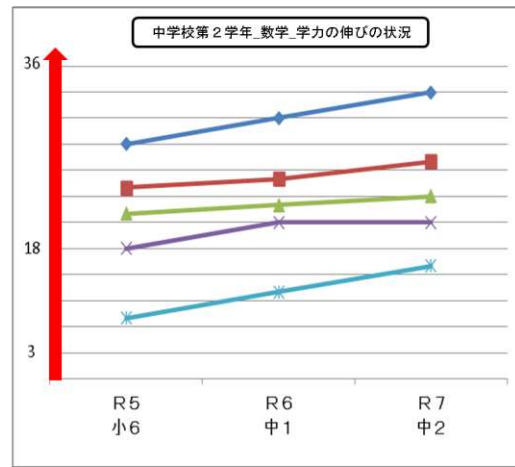
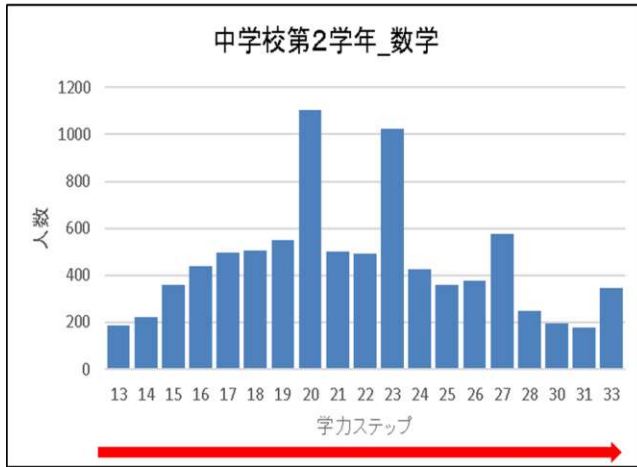
深い学びの必要性



関連付けて理解した内容は剥落しにくい長期記憶へ

学びのパスポートの学力ステップの傾向から

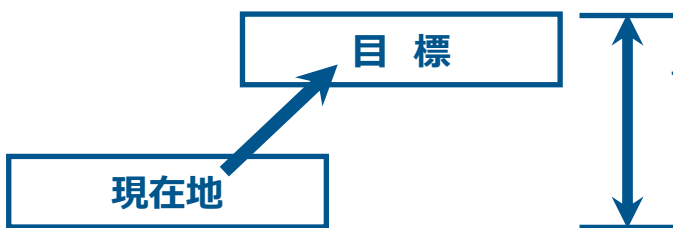
「帳票：06_学年_各実施主体の調査結果票」



学力ステップが上がるほど**意味理解（概念的な理解）**を求められる傾向

* サンプルデータを掲載

自己調整を大切にしている学校では…



ギャップ…**類推と試行錯誤**が生まれる
試行錯誤の中での学習サイクル…
①見通し
②実行
③振り返り

* 自己調整 = **学びの状態** * * 自由進度学習（複線型授業） = **方法**

自己調整のステップ…

- ① 観察（見てやり方を学ぶ）
- ② 模倣（自分で真似してみる）
- ③ 自己制御（自分のものにする）
- ④ 自己調整（自分に合った形で工夫してできる）

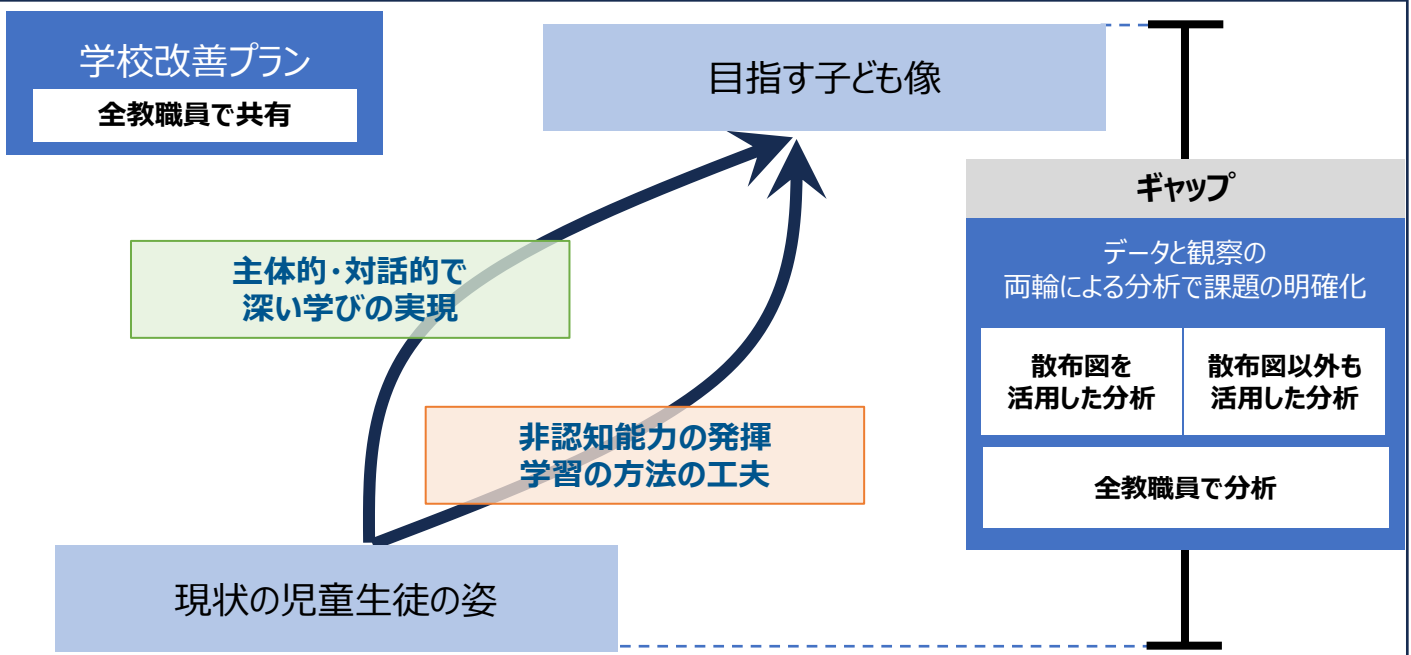
学習サイクルを回す上で…

- ① 動機付け
- ② 学習の方法
- ③ 自己調整

できそう×よさそうと
試行錯誤と振り返りの繰り返しが
学習のポイントに！



主体的・対話的で深い学びの実現



認知能力と非認知能力との二項対立にならない授業構想を

認知能力と非認知能力を一体的に育むために～指導案の工夫例～

9 本時の目標
数量の関係をもとに、単位とするほうの量をきめ、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。
(思考・判断・表現)

身に付けてきた力

- ・四捨五入など概数の計算ができる。
- ・商を概数で表す場合のわり算の計算ができる。
- ・一つ分の大きさはどうなるのか、平均を求めることができる。

身に付けさせる力

- ・混みぐあいなどについて、その比べ方や表し方を考えたり説明したりすることを通して、単位量あたりの大きさを求めて比べることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

発展させる力

- ・1時間でどれだけ進むのかなど、時速や分速のような「速さ」に関する問題を解決することを通して、速さ、道のり、時間の関係の理解を深める。

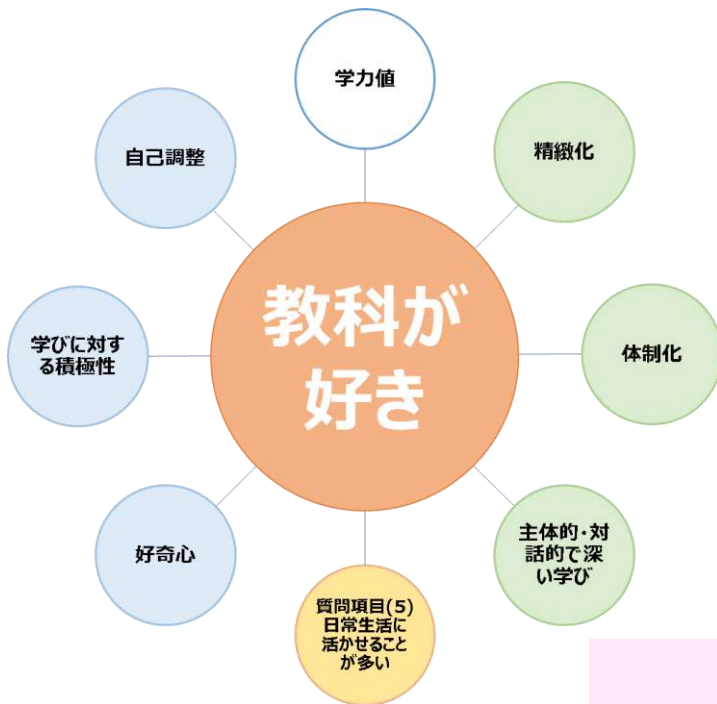
教材研究を通じて、
未習事項と既習事項を言語化し、
付けたい力を具体的に記述

	質問紙の項目	本時
自己調整	(30) 自分の考えた道筋を他の人の視点からも考えて、見つめ直す方だ。	学級の意見から、どちらを基準量にするべきか理解し、適応題で、自分に合った方法を選び、その理由を説明している。

本時における「非認知能力等の発揮」を言語化

「付けたい力」と「発揮させたい非認知能力等」を基に授業構想へ

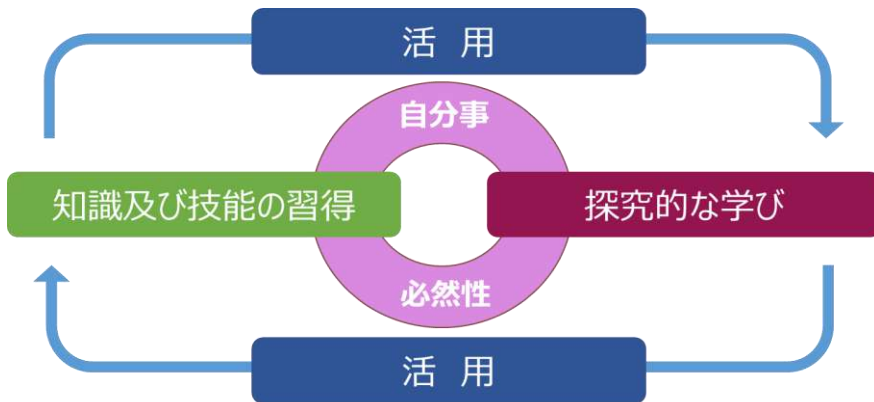
「教科が好き」と学力、「教科が好き」と非認知能力等との関連



・「教科の学習が好き」という質問項目と「学力値」だけでなく、非認知能力等や学習方法、「主体的・対話的で深い学び」は、正の相関関係が見られた。

・「教科の学習が好き」であることと、「主体的な学び」に関連があると考えられる。

自校の教科が好きな割合は？



◇既習事項や他教科の学びを生かす等の学習経験を積むことで、教科の魅力や学ぶ意義を児童生徒が実感させることが大切

◇児童生徒が自分の考えを表現することや他者との対話に価値を見出し、目的意識をもって学習活動に取り組むことが大切

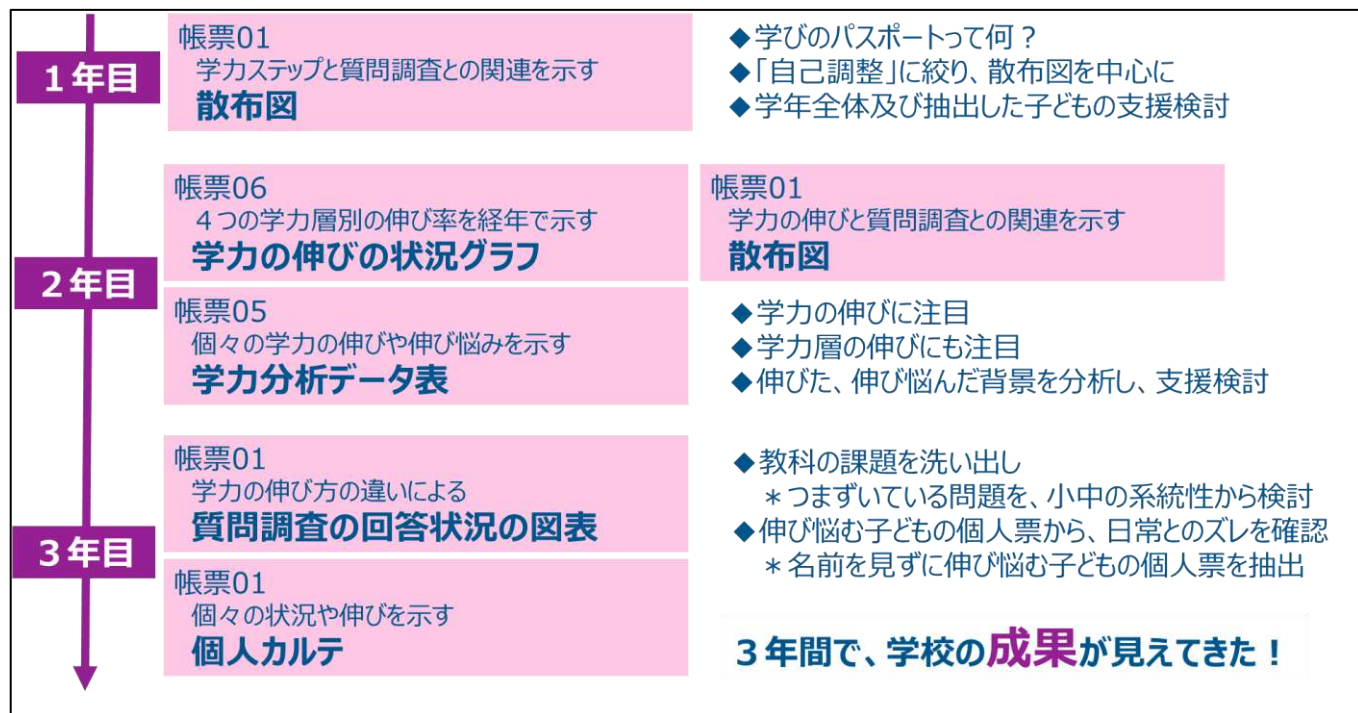
自校の児童生徒は、学ぶ意義や目的をどのように捉えているか？

「もっと知りたい、探究しよう」とする**知的好奇心**をくすぐる
授業展開や学習活動の工夫を

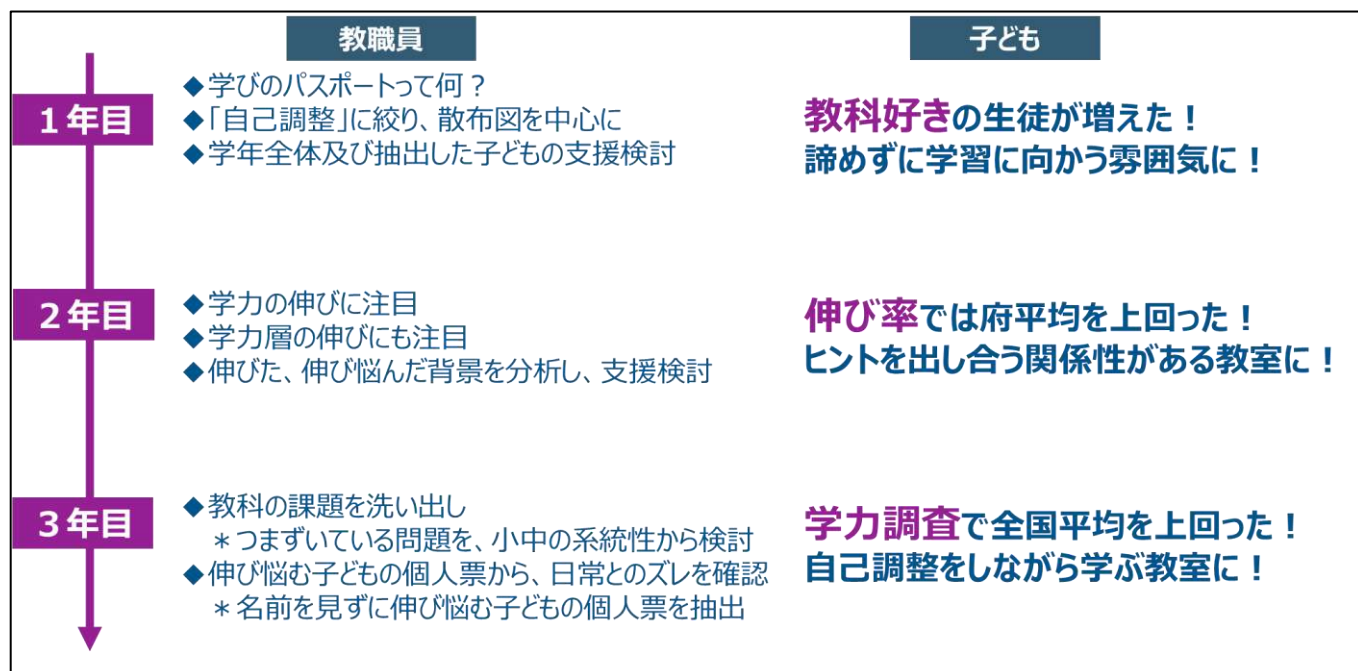
IV 研究校の実践の足あとから

IV 研究校の実践の足あとから

分析例



活用例



研究校で共通していることは

全教職員で対話・考える研究会

学ぶ意義を実感できるような授業

全教職員で指導を振り返る機会を設定

集団と個の双方からデータ分析

非認知能力等を発揮する場面設定

「京都府学力・学習状況調査」活用推進事業に係る研究校

【1期校：令和5・6・7年度研究校】

・綾部市立綾部中学校ブロック

（綾部中学校、綾部小学校、吉美小学校、中筋小学校）

・宮津市立栗田学院

（栗田中学校、栗田小学校）

【2期校：令和6・7・8年度研究校】

・向日市立西ノ岡中学校ブロック

（西ノ岡中学校、第2向陽小学校、第6向陽小学校）

・井手町立泉ヶ丘中学校ブロック

（泉ヶ丘中学校、井手小学校、多賀小学校）

・城陽市立西城陽中学校ブロック

（西城陽中学校、今池小学校、寺田西小学校）

・南丹市立園部中学校ブロック

（園部中学校、園部小学校、園部第二小学校）

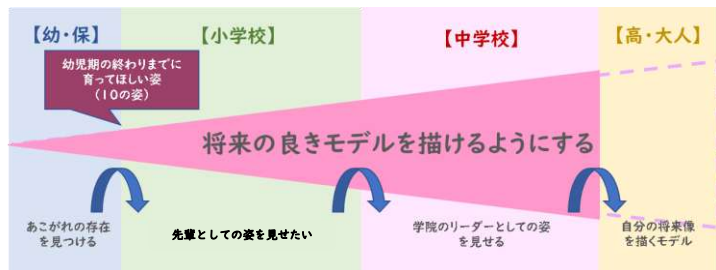
【3期校：令和7・8・9年度研究校】

・福知山市立成和中学校

・与謝野町立山田小学校

栗田中学校ブロックの強み

- 異年齢活動+地域の方々とつながる



学びのパスポートの結果分析も、公開授業の事後研修も全ての児童生徒の顔が分かる先生たちだからこそ、
幼・小・中の全ての校種混在のグループでそれぞれの視点からの分析ができる



目指す姿への変容

子どもたちも教員も目指す姿にどのように向かっていけばいいのか、ゴールに向かうまでの姿を共有し、確認できるようにした。

ステップや方法（ゴールに向かう姿）

学びのコーディネーター

(教員は子どもがその姿を実現するよう授業をコーディネート)

[illegible]

少人数ならではのよさを生かして、一人一人の成長をきめ細やかに見取ってきた。だからこそ、3年間を見通した目標に加えて、子どもたちの成長に合わせて、研究の方針を微調整し、目の前の子どもたちの状況にあった最適の研究を進めることができた。



子どもたちの非認知能力の変容につながった。

子どもたちの学び手としての意識が途切れるとことなく同じスタイルで
学びを進めたことにより非認知能力の大きな変容へ

学びのパスポートの結果分析を教師の見取りの根拠として活用し、更なる授業改善へ

向日市立西ノ岡中学校ブロック <向日市立西ノ岡中学校・第2向陽小学校・第6向陽小学校>

目指す子ども像 人とつながりながら、生涯にわたって主体的に学び続ける子ども
自ら見つけた課題について、探究的に深く学び解決できる子ども

学ぶ意義の実感を目指して

向日市立西ノ岡中学校 入学式の式辞より

「なぜ学ぶの？勉強するのですか？」
「高校や大学に進学したいから」「将来の役に立つから」「勉強しなさいといわれるから」・・・など、人それぞれかもしれません。
例えば、数学を学ぶことで論理的思考が鍛えられ、問題解決の力が身に付く。歴史を学ぶことで過去の人々の生き方を知り、自分たちの未来を考える力を養える。先生は保健体育が専門でしたが、大人になっても運動に親しみ、健康な生活を続けていく力を育てようと授業をしていました。
学ぶことは、ただ知識を得るだけでなく、考え方や学び方、正解のない問いへの向き合い方といった課題を解決する力を伸ばすことでもあります。皆さんが大人になって活躍するこれからの時代は先行きが不透明で予測困難かもしれません。中学校の学習では、1つの正解を効率よく見付けるだけではなく、膨大な情報から何が重要かを選択肢、自ら問いを立てて、主体的に他者と協働しながら解決を目指し、新たな価値を生み出していく力を伸ばしてください。

学習の手引き：なぜ学ぶのか×学習のやり方

教科・科目をなぜ学ぶのか

数学は、「わかったこと」「できたこと」を覚えて、様々な問題を解いていきます。
その中で、「あれ？どうしたらいいんだ？」と、「わかったこと」「できたこと」をそのまま使うことができない問題も出てきます。
そこで、「なぜ、思ったのか？どのようにすれば、わかったこと」「できたこと」を使えるようになるのか」をずっと考え込むことが大切です。
そして考えたことにより、その問題を解くことができたり、できなかったりしますが、一番大切にしてほしいことは「解り通る」「更に考え続ける」ということです。
「なぜ、解くことができたのか？」「解くことがなかったのか？」を整理することや「他の考え方はないのか？」「新たな発見、気づきはなかったのか？」と視点を広げて考え続けることが重要です。そして、実はそここそ数学の面白さがあります。（ぜひ、その面白さを感じてほしいと思います。）
つまり、みなさんは数学を通して、問題を発見し解決していく過程やその楽しさを学んでいます。

学習のやり方

■何を学ぶのか
数学では、問題を解決する過程、特に「解り通る」「更に考え続ける」ことを通じて、「そういうことか！」「なるほど！」「と解り通ることもや「こういうことも考えられよう」と新たな発見、気づきにつなげることで、さらに「そういう考え方（着眼点）もできるのか」と捉え方を再構築することなど、「知識を深める、再構築する過程やそれ自体の楽しさ」について学びます。

■どのように学ぶのか
数学では、問題を解決する過程、特に「解り通る」「更に考え続ける」ことを通じて、「そういうことか！」「なるほど！」「と解り通ることもや「こういうことも考えられよう」と新たな発見、気づきにつなげることで、さらに「そういう考え方（着眼点）もできるのか」と捉え方を再構築することなど、「知識を深める、再構築する過程やそれ自体の楽しさ」について学びます。

非認知能力等の発揮×深い学びの実現

向日市立第6向陽小学校 第1学年 図画工作の単元構想

☆ブロックとしての構想・目指す児童像☆

友達との発想の交流を「つながり」として捉える。その「つながり」を通して作品作りの構成や着色について想像力を膨らませていく。伝えること、聴くことを大切に、友だちとの意見交流から想像したこと、表したことを見付けて表現に発展させていくことを目指す。

☆目指す児童像☆

- 生活体験、知識をもとに作ってみたい物のイメージを話す児童
- 友達の考えに共感したり、連想を感じたりして自分の考えに反映させようとする児童

図画工作科「いろいろなかたちのかみに」

第2時 友だちの作品をみて自分の作品をつなぐ

第3時 本時の探究

第4時 新しい価値の創出

第1時 主体性

「目指す子ども像」だけでなく、「資質・能力の育成」も目指した単元づくりの見える化している。

☆学習指導要領☆

《表現》

- 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表現したいことを見付けて表すこと。
- 形や色、材料の特徴や構成の美しさを感じ、用途などを考えながら表現したいことを構成して表すこと。

《鑑賞》

- 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えること。

向日市立第2向陽小学校 研究内容

授業改善（問いの連続・45分以上考え続ける）

問題提示

めあて（問いの共有）

自力解決

「問い」が連続する2向小授業スタイル

考え方の共有化（新たな問い）

適用題

まとめ

振り返り（次時の問い）

研究で大切にしていること

深い学び

- 自分たちで
- 結びつける
- 深める
- 発展させる
- 学びを広げる

自己調整

- 自分たちで
- 見通しをもつ
- 試行錯誤する
- 交流する
- 学びを振り返る

これまでの研究

これまでの学校の研究に「深い学び」と「自己調整」を大切にした授業づくりの研究を充実させている。

学ぶ意義を実感できる教科指導の在り方の研究の充実
「目指す子ども像」と「教科の目標」を掛け合わせた授業づくりの実践

「地域とつながる力」「変化する社会を生きぬく力」「人権を大切にする行動力」「たくましく豊かな人間力」
これらの力を使い、未来のまちづくりを担っていく子ども

・ 思考の柔軟性 ・ 自己調整 ・ 目標に向かって取り組む姿勢



思考の柔軟性

自己調整

目標に向かって取り組む姿勢

・授業研究会では、授業者が「どの非認知能力を働かせたいか」を明確化し、参観者と共有

[illegible]

事後研究会では、授業のねらいの達成度に加え、児童生徒が非認知能力を発揮していた場面についても協議。授業者が意図的に設定した場面だけでなく、参観者が見出した新たな場面についても意見を出し合い、多面的に授業を振り返った。

[illegible]

学習カードによる振り返りでは、児童生徒がその日の学びや課題を具体的に文章化し、教師のコメントを受けて次の行動を考える流れが確立している。学習を「できた／できない」で終わらず、理由や改善策まで言語化することで、学習の見通しをもつ力・振り返って軌道修正する力（自己調整）が着実に育っている。

目標に向かって 取り組む姿勢



異年齢での話し合い活動や教え合いを通して、異なる意見に向き合い、考え方を見直そうとする場面が見られた。また、問いかけを手がかりに、多面的に考えようとする姿も徐々に広がっている。

思考の柔軟性



目標を自分事として捉えられるよう、目標の意味付けやステップを可視化するなどの工夫をしたことで、主体的に取り組む姿勢に変化が見られた。

目指す学びの姿を共有し、学年や学校を超えて意識を高めたブロック及び校内研修の取組
学び方を選び、目標に向かって主体的に粘り強く取り組む児童生徒が増えた教室の姿 4

城陽市立西城陽中学校ブロック

<城陽市立西城陽中学校・寺田西小学校・今池小学校>

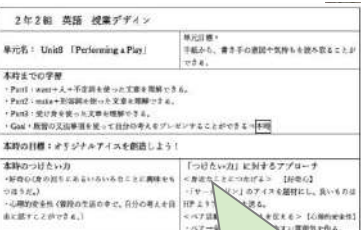
目指す子ども像

- ・互いに認め合い、自ら考え行動する 自ら考え学び合う子
- ・人と人とのつながりを大事にし、お互いを思いやりながら高め合える関係性を築き、社会の中で生きる力をもった子

西城陽中学校ブロック授業研究会

公開授業（西城陽中・寺田西小・今池小）

ブロックで目指す児童生徒像を共有し、「教科で求められている資質・能力」を育む授業づくり



昨年度の研究テーマ「心理的安全性」をベースにしつつ、各校の特色を生かした実践について研究が進められている。ブロック内で「西城陽中ブロックで目指す子ども像」を共通確認しながら、「教科で求められている資質・能力」を身に付けていくための授業」について活発に研修を行っている。

取組の発信・共有

各校、便りやリーフレット等を活用して研究推進部から積極的に情報発信を行っている。活発に授業交流が実施され、授業記録や授業者からの振り返り、各種フィードバック等を日常的に共有している。



「付きたい力」を実現する授業づくり

西城陽中 2年生 英語科「Performing a Play」

- ①「目指す生徒像」の実現のために「付きたい力」を明確化する。
…【好奇心・心理的安全性】
- ②そのためのアプローチを言語化して授業計画に活かす。
…【好奇心】：身近なことに繋げる
→有名企業のアイスクリームを題材にし、優れたものはHPからアイデアを送る。
…【心理的安全性】：ペア活動で自分の考えを伝える
→全体で英語を話しやすい雰囲気を作る。



今年度の研究を振り返って（職員室の先生から）…
「研究が楽しかった。しんどい研究ではなく、やってみたくて思えるように、私たちが牽引してくれてありがとうございます。来年は自分自身も主体的な学習者として研究していきたいです。」

校内での共有はもちろん、成果を3校でも交流することで研究の方向性を一致させている。授業を軸にした教員の交流は同僚性を高め心理的安全性を高める一助としている。



授業研究会・学びのパスポート活用推進プロジェクト会議



各小・中学校の管理職や研究推進担当、教務主任が参加し、昨年度からの各校の継続した研究における成果と課題、児童生徒や学校の変容等について報告及び共有するプロジェクト担当者会議を行っている。城陽市教育委員会、山城教育局から各校での実践について指導助言をもとに、中学校ブロックの方向性を一致させている。

中学校ブロック全体で「目指す子ども像」を共有することで強力に研究を推進
児童生徒だけでなく、教師も心理的安全性を高めながら「ブロック全員で」取り組む風土を醸成

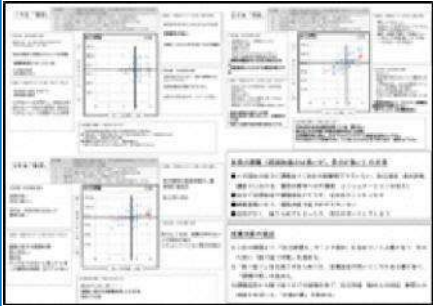
福知山市立成和中学校

目指す子ども像 自ら考え、よりよくつながり、挑戦し続ける子

学力向上のために「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して
～実践をブラッシュアップできるRV-PDCAサイクルの確立～

多面的・多角的な「Research」

～散布図だけでなく、伸びや質問調査を経年比較～



令和6年度			令和5年度			令和4年度			令和3年度		
国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
									現中1年生		
									現中2年生		
									現中3年生		
									現高1年生		
									現高2年生		
									現高3年生		



「Vision」を基に「Plan」「Do」「Check」の実施

～データと観察の両輪による分析に基づく研究の推進と効果検証～

目指す学校像	自ら考え 仲間とつながる チャレンジ成和		
目指す生徒像	将来を展望し 自ら学ぶ生徒	自他を大切に 仲間とつながる生徒	健康でたくましく 挑戦し続ける生徒
生徒の高めたい 非認知能力	自己調整	思考の柔軟性	チャレンジ精神
教員の授業 づくりの視点	振り返りの質	対話の質	課題の質
ベース	学級経営・人権感覚（心理的安全性）		

- ① 目指す姿と現状のギャップから課題を焦点化する。
- ② 課題解決のために、授業での具体的な目指す姿を言語化し共有する。
- ③ 目指す子ども像の実現と深い学びを掛け合わせた授業づくりを全教科で構想する！



自然と自己調整する姿



振り返りの内容を重視



日常的に「なぜ？」を大切に授業実践



未来予知はできひんし・・・

こうなると分かっていたら出来るけど・・・

このお話でいうと私なら・・・

道徳科の深い学び

「Action」の工夫から次の「Plan」の構築へ

～「深い学び」の実践共有～



教科の壁を取り払い、全教員で「深い学び」の実践を共有している。失敗を恐れず本音で話せる信頼関係があるからこそ、成功事例だけでなく不安や課題も率直に共有でき、各教員が自発的に改善策も含めた次なる「Plan」を構築できる。

教員一人一人の実践の共有を大切にしたRV-PDCAサイクルの確立
全ての教科で「深い学び」の実現を目指した研究

与謝野町立山田小学校

目指す子ども像 つながる 考え行動 チャレンジ・リトライ

結果分析

校内研修「学びのパスポート研修」

「個人分析シート」を活用し、全児童を分析、個への支援、授業改善への視点を明確にしている。



結果返却

学びのパスポートの調査の意義、振り返りのポイント等を見童たちに説明している。学校全体でスライドデータを共有し、学年を超えて同じ指導ができるような工夫がある！



まとめると…	
事項	留意点
① 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
② 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
③ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
④ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑤ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑥ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑦ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑧ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑨ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。
⑩ 学習の振り返り（自己分析シート）	授業で学習した内容を振り返る。学習の振り返りシートを活用し、自分の学習状況を振り返る。

主に個に焦点をあてた分析を実施。昨年度からの変容や今後の方針について検討している。

すべての子ども達が自分事として調査結果の振り返りができる環境を構築している。

研究授業

Enjoy ～全力で楽しもう～

を掲げて研究授業を実施

結果分析を踏まえ、個への支援・手立てを指導案に記載している。個別最適な学び、協働的な学びの視点から授業改善を推進している。

第 5 学年 算数科「面積」



ICT を効果的に活用し、仲間と協働して学ぶ姿が！



既習事項を確認し、本時の学習の見通しをもたせることで、主体的な学びへと！



分析結果を踏まえ、一人一人に応じた指導・支援の充実へと！

第 1 学年 算数科「大きいかず」



前時の振り返りと既習内容の共有、学習の見通しの確認からスタート！



友達や教師からヒントをもらい、自己決定しながら、問題解決を進めていく姿が！

小規模校の特性を生かし、児童一人一人に焦点を当てた取組を推進
結果分析・結果返却・授業改善を組織的に行い、
R V - P D C A サイクルを循環させて、児童の資質・能力を育成

V 提言

1 「RV-PDCAサイクル」：全教職員でデータの活用を

学びのパスポートのデータは、調査対象教科に限らず、全ての授業や学級経営など、1年を通じて学校教育全体で活用できるものです。あらゆる場面で参照することで随時の効果検証となり、次年度の構想にも反映させることができます。「分析の時」や「校内研修の時」、「結果返却の時」だけ利用するデータではなく、全教職員がいつでも見られ、常に活用される環境にあることが理想です。

また、RV-PDCAサイクルを回しながら、学校やブロック全体としての方向性を明確にし、意識を一致させて取り組んでいく必要があります。「学校改善プラン」の活用によって、「目指す子ども像」や具体的な取組の意義などを全教職員で共有することができます。定期的に全体での確認の場を設け、RV-PDCAサイクルを循環させていきましょう。

2 「データと観察の両輪による分析」：これまで以上の指導・支援の充実を

児童生徒の伸びや変容から指導・支援の在り方を振り返り、改善していくことが重要です。「結果データ」と「日常の子どもの様子の見取り」の両面から教室の姿を多角的に捉えることで、児童生徒理解は一層深まります。研究主任、教科担当、担任だけで分析を行うのではなく、日頃から子どもを見守っている全ての教職員が具体的な姿を共有しながら手立てを検討することで、よりよい指導・支援につながります。また、個人カルテ（帳票01）や質問調査結果（帳票03）などを活用し、より一層「個」に焦点を当てることで、「指導の個別化」や「学習の個性化」もさらに進めていくことができます。

3 「自校の現在地の把握」：集団と個の伸び悩みの分析・共有を

京都府全体の調査結果からは、認知能力について、中間層の伸び悩みが明らかになっています。授業改善においては、教科等で求められる資質・能力を「知っている」「できる」といった表層的な理解にとどめず、「意味も含めた分かる」レベル、「知識・技能が生きて働き、社会や生活場面等で実際に使える」レベルへと高めていく単元づくりが求められます。「認知能力と非認知能力を一体的に育む」ことを軸にしながら、「目指す子ども像」を実現していくための手立てを構築していくことが大切です。帳票06及び帳票07、帳票01の個人カルテ等のデータを用いて、集団と個の現在地や伸び悩みを分析したことを共有し、全教職員で課題解決に取り組みましょう。